

武器考證卷九

書目

扶桑畧記

後醍醐院日中行事

參考保元物語

參考平治物語

矢島草子

古事談

兼人記



明治十三年購求

泰皇古曾孫高平左
車留書美段不忠依一



明德記
應仁記

大正十一年九月五日
林秀吉
書目
大正十一年九月五日



扶桑略記拔書

阿闍梨皇圓作

保呂

宇多院寬平四年
壬子九月記文

九月五日對馬塙司言新

羅賊徒船四十五艘到着之由太宰府同九日進

上飛驒使同十七日記云同日卯時守文室

善友召集郡司士卒仰云汝等若箭立背

者以軍法將科罪立額者可被賞之由言上

者仰託郎率列郡司士卒以前守田村高良

令返間島分寺上座僧面均上○即副大領下

今主為押領使百人軍各結北番遣絕賊移要

縫物甲冑
貫革袴
銀作太刀
經弓
革胡錄
宛夾
弩
孔聲

害之道豐圓春竹率弱軍四十人度賊前凶賊
見之各銳兵而來向守善友前善友立指令調弩
亦令亂聲時凶賊隨亦亂聲即射戰其箭如雨見
賊等射並逃飯將軍追射賊人迷惑或入海中
或登山上合計射殺三百二人就中大將軍三人
副將軍十一人所取雜物大將軍縫物甲冑貫
革袴銀作太刀經弓革胡錄宛夾保呂各一具
已上附脚刀多朱常繼進上又奪取船十一艘
太刀五十柄楯十基弓百十張胡錄百十房楯

三百十二枚僅生獲賊一人其名賢春即申云彼因
年穀不登民飢苦倉庫悉空王城不安然王仰
為取穀緇飛帆參來但所在大小船百艘乘人
二十五百人被射殺賊其數甚多但遺賊中有
最敏將軍三人就中大唐一人已上日記
腹卷醍醐天皇延長六年戊子記十二月五日行幸大原野
御鷹鳥飼道遙云々親王公卿及殿上侍臣六位以
上着麴塵袍諸衛官人著褐衣腹卷行騰每事
同大井河行幸

應和二年八月十六日御覽藏
口相撲
全書見于村上帝

相撲

宇多院仁和五年八月己巳日大臣參內談說
已酉八月之記

之次云畧又相撲事從指原天皇御代至今代々
天皇皆盡好之貞觀以後寂然無聞今聖主不
捨之亦不樂于朕本自筋力微弱而無可敵者略
名劔同上正月十八日太政大臣奏云昔臣父有名劔
世傳則灵功但有名田邑天皇喚件劔責陰陽師
即為厭法理于土于時帝崩陰陽師逃亡是見
鬼者之也而不知所在彼陰陽師居神泉苑爰推
量其處掘覓得此劔拔所着劔令覽者是也光

彩香耀電自驚霜又還納室已上

御記
甘南扶持還來云去廿九

武装束廿二

同年十二月廿二日之記
甘南扶持還來云去廿九

日申時始到嶋下郡審問事由鄉人語云太
上天皇御此鄉備後守藤原氏助之宅御在所
也乎君于從卒若亂入此宅家人士女或遁亡山澤
或處迷道路氏助宅無有一人此為狩取安倍山
猪鹿也而夜以松火炬時臨暮之間還御此宅
但卒童子十二人厩舍人二人悉武装束弓矢
相分前後騎馬行列云云
陽成院御二十年八月廿二日

帶弓矢

賭弓懸物

村上天皇天曆三年三月之記 六日巳酉賭弓廿

二日乙丑天皇御弓場殿御覽侍臣賭弓藤

壺女御曹司懸物女裝束一籠也○貞大按

ル此余今所列本二見エ

銀造太刀

天曆九年巳卯三月十二日之時 酉時

天滿天神託宣云近江國比良宮仁天祢宣

神主良種加男太郎丸登云年七歲童仁

宣託天我久可云事有中畧答仰給久我物具

此托ハ未住始皆納置佛舍利玉帶銀造

太刀火鏡杯尺有毛リ

祈雨競馬

天曆二年戊申正月八日之記 又遣殿上人於丹生

貴布祢子祈其雨被奉競馬

此余今所列本二見エ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

後醍醐院日中行事抜書

御劔置接

外此時可との事ははるの事と先
清涼殿の
花人御殿も括子と引く南
并二の伺ごたして見ふいすも一たれおふのちり
入る次方よりさうだまきしりりいあへてい
きか不
して志せ給ふ心りし志す破れもこの沙流
赤いおのり沙流志せ給ふ心りし志す破れもこの沙流
れ他もまきしりりいあへてい
か南白西の沙流といふの如く
南白

向よりハシ流れたる南と
ありさゆれ沙流もあつた
鳴弦

鳴弦

亥時より申刻りしは
下括

子以後殿上の事あり花人
の南白西の沙流といふの如く
久のりしとさゆれハシ流れたる南と
六位系人上首の志ふも
名のり次六位の姓と
崩れよあをりて二回のみ

板一治まの上よいさゆりきてしん治まきこしりし治既
 かつ治しちしてめい治のりごとの治際口のよ
 ますり山治くもん治や治たいたいあし治てよ
 陳治り治ま治多治り治利治の治人治中治陽治風治の治ま治る
 後上治の治口治し治少治り治多治く治る治風治上治と治ん治貴治そ治や治小治板治を
 小治志治候治し治し治る治中治し治る治ん治さ治ま治き治し治る治風治日治に治ま
 貴治首治あ治れ治ば治人治許治小治つ治き治く治さ治る治ゆ治つ治き治く治中
 夕治り治返治あ治そ治を治し治る治一治言治し治る治北治方治布治衣治

参考保元物語

参考者水戸府今井弘濟考訂
内藤貞顕重校

白青狩衣 浅黄絲鎧 上折烏帽子 白星兜 切府

矢 二所藤弓 黒鞍直兜 物具腹巻 官軍方々
手分ノ余印

本ニ云基盛大和路ヲ南ヘ發向スルニ法性寺ノ

黄絲ノ鎧ニ上折シタル烏帽子ノ上ニ白星ノ

兜ヲ着切府ノ矢ニ二所藤ノ弓持黒馬ニ黒鞍

置テノ乘タリケル 白青以下至此
半井本不載 其勢百騎討ニ

テ基盛大和路ヲ南ヘ發向スルニ法性寺ノ

一人橋ノ邊ニテ馬上十騎討直兜ニテ物具

狩衣ニ鎧着
安藝判官
基盛

一行漆衣
黒系威

シタル兵岡崎本ニ有ニ上下二岡崎本十余人

都へ打テリ上リケル○半井本ニ云法性寺

辺ニテ混兎十四五騎腹巻ニ矢負タル歩武者

十四五騎相見シテ都合三十余人ニ逢○京師

本杉原本鎌倉本並云爰ニ法性寺一ノ橋

辺ニテ大和ノ方ヨリト覚シクテ直兎ノ兵

三十余騎サツト行逢タリ基盛三百余騎

才一面ニメテ、少指進テ直中ニ控タリ基盛

其日ハ一行漆ノ緇京師本杉本ニ不載一行漆○緇ノ字ハ衣ノ字ナリ

ハシ 白襖ノ狩衣黒系威鎧ヲ着黒馬ニ黒鞍置

テ衆弓取直ニ歩セ進テ申ケルハ

黒系威鎧 上ニ見エタリ

褐直垂 藍白地黄返鎧 黒羽矢 塗籠藤弓 貝

鞍 小櫻黄返鎧 箭巻弓 右同 印本ニ云大將

ト思シキ者褐ノ直垂ニ藍白地ヲ黄ニ返シ

タル鎧着テ黒羽ノ矢負ヒ塗籠藤ノ弓ヲ

持黄河原毛ナル馬ニ貝鞍置テリ衆タリテ

ル 宇野七郎源親 ○京師本杉原本鎌倉本並

云其時主人ト覚シキ者 京師本杉原本云大男云 眼廿三

頼魂誠ニクケナルカ馬居事柄アルハカルク

ナルカ一騎進ニ出タリ 録倉本云 褐直番ニ

遠目ニハサタカニ見ヘ分ス黒ハ三 小櫻ヲ黄ニ返

タル直番ニ小サククラヲ云々 ニ返

ニタル鎧ヲ着黒羽ノ征夫ニ節卷ノ弓ノ拳

太ナルヲ持黄河原毛ノ馬ニ 京師本杉原本ニ云太ク遅シキニ

白フクリニノクラ 乗弓取直ニ進出テ

弓拳太ナル 上ニ見ユ

矢並搔繕 兎緒 射向袖 鋳ヲ頰 右同 京師本

杉原本鎌倉本云親治如何思ヒケニ矢並

頻リニ搔繕ト兎ノ緒ヲシメ射向フ袖ヲ

テ合セ鋳ヲ頰ケ暫ク物ヲソ案シケル

内裏ヲ志テ上浴スル由ヲ答

源家重代鎧名 新院召 印本云過ル夜ノ夢

ニ重代相傳仕テ侯月數日數源太力産

衣 按杉原本 或作七龍 八龍澤泻薄金指魚膝丸ト申

テ八領ノ鎧侯力辻風ニ吹レテ四方ヘ散ト見

テ侍ル○京師本杉原本鎌倉本並ニ云此

程心得又夢想ヲ見ル事侯薄金膝丸指無
八龍京師本杉原本載月ナト申ケル重代相
傳ノ鎧共風ニ吹レテ四方へ散失ルト見
テ侯全卷八条○印本云為義今度ハ最期ノ合戦
思ヒケレハ重代ノ鎧ヲ一領ツ、五人ノ子
共ニ着セ我身ハ薄金ヲソ着タリケル
源太力産衣ト膝丸トハ嫡々ニ傳ルコト
ナレハ雜色花沢ヲシテ下野守ノ許へ
ソ遣シケル為朝冠者ハ器量人ニ勝レテ

常ノ鎧ハ身ニ合サリケレハ着サリケリ此
膝丸ト申ハ牛子頭カ膝ノ皮ヲ取り威シ
タリケレハ斗ノ精ヤ入ケニ常ニ現シテ主
ヲ嫌ヒケルハサレハ塵ナトヲ掃ハントテ
モ精進潔齋シテ取出シケルトナリ懸ル
希代ノ重寶ヲ敵トナル子ノ許へ遣シ
ケル親ノ心ソ哀ナル

御着長 甲冑ヲヨロフ 腹巻物具 絲火威鎧
新院 御所
門々回 京師本 杉原本 鎌倉本 並ニ云 新院
ノ条

左府御着長ヲ召教長

京師本杉原本云教長見進セラ太上天

皇ノ御身トシテ忽チ甲冑ヲヨロハセ給ハニ丁前代末聞其上暑キセツト云

暑キ

第ニテ候サナクトモ渡ラセ給ヒナント

諫メ申テレハ院モ左府モ脱セ玉フ教長

成雅以下ノ上北面水干袴ニ腹卷ヲ著ス

武者所ノ衆甲冑ヲ帶ス云々○半井本

云院モ左府モ御鎧ヲ脱セ玉フ左府ハ猶

白綿ノ狩衣ニ絲火威ノ鎧ヲ召ケル教長

成雅討リ水干袴ニ腹卷着ル是ハ戰ハニ

ニハ非ス流矢ノ爲之上北面ニ師光家長

頼助ハ狩衣袴ノ上ニ腹卷ヲ着武者所

ノ衆ハ仰ニテ皆甲冑ヲ帶ス云々

紉地色々絲繡獅子丸八籠鎧 白唐綾威大荒目

獅子丸金物打 三尺五寸太刀 熊皮尻鞘 五人張弓

七尺五寸 鉄打 黒羽矢 矢束十五束 十八束弓

八尺五寸 鷲梟鷄羽 藤ハキ 角筈 指破 蠅尾

鳥古 釵金根 上矢鏑 大雁股 山鳥羽鶴霜降 白

覆輪鎧 裾金物 鍊鐔 黒漆太刀 塗籠藤弓兜

才高叙ニ掛 烏帽子引立

全巻 新院御所 印本ニ云
門々固ノ糸

為朝ハ七尺許ナル男ノ目當ニツキレタル
カ緝地ニ色々ノ糸ヲ以テ獅子丸ヲ縫タル
直岳ニ八龍ト云鎧ヲ似セテ白キ唐綾ヲ以テ
威ニタル大荒目ノ鎧同獅子ノ金物打タルヲ
着ルニ、ニ三尺五寸ノ太刀ニ熊皮ノ尻鞘入
五人張ノ弓長七尺五寸ニテツク打タルニ三
十六差タル黒羽ノ矢負ヒ兜ヲハ郎等ニ持
セテ歩出タル○京師本杉原本鎌倉本半

井本並ニ云彼為朝サル者トソ兼テ聞シ
召シ置タル上父是程ニ拳シ申ハ様有ヘシ
トテ召出サル氣色事カラ頬魂誠ニイ
カメシケナル者也 鎌倉本ニ云十八歳 其長七尺許生
附タル弓取ニテ弓手ノカイナ妻子ヨ
リ四寸長ケレハ矢束ヲ引丁十五束 半井本云十八
束弓ハ八尺五寸長持ノ柄ニモ過タリ 半井本云
三人ニテ張鎌倉本云張時ハ三人ニ
タヲサセテ一人ヨリテ弦ヲカク云々 矢ハ三年竹
ノ極テ第逆ニ金色ナルヲ洗ヒ磨カハ性

弱リナントテ第斗リコワケ木賊ヲ以テ
 磨キ猶モ輕クテ折モヤセントテ鐵ヲノ
 ヘテ篋中過ルマテ第ヲ通シテ入タリ猶モ輕クテト
云々至此半羽ハ鷓鴣ノ羽ヲ嫌ハス藤ハキ
井本不載ニ卷タリ答コラヘスミテ破碎ケル間角ヲ續
 テ朱ヲ指タリ答カラヘスミテ云々矢ノ根ハ指
 破録倉本云鳥ノ舌ニモアラス蠶ノ如クナル
 物ヲサキ細ニ厚サ五分廣サ一寸長サ八寸
 ニウタセテ一子キハオハ篋ニスリキセ氷

ナトノ撮ニトヤ磨タリ又本ニ油ヲサス上矢
 ノ鏑ハ十一朴ヒイラキナトヲ以テ目ノ上
 八角ニ押削リ目九ツサシタルニ双一寸半六
 寸ノ大雁股ヲ子チスゲタリ三峯ニスリタ
 テ三峯録倉峯ニモ双ヲツケタルハ三峯云々
本作四峯載本不小長刀ヲニツ打違ヒナテ麩子ニ立タルニ異
 ナラス籐ハ白篋ニ山鳥ノ羽鶴ノ霜フリヲ
 合ハキニ木四立ニシテハキタリ二十四指タル
 簾ニ此鏑ヲ四筋差添タリ褐ノ直垂ニ獅子

丸ヲ縫タルニ白キ 白京師本錄 倉本作黒 唐綾ヲフトリ

疊テ威ニタル大荒目ノ鎧獅子ノ丸ヲ裾金

物白覆輪ナルヲ着タリ 鎌倉本半井本白練 之字無之

鐔ノ黒漆ノ太刀三尺八寸 鎌倉本半井本同本書 作三尺六七寸

熊皮ノ瓦鞘入テ帶タリ弓脇ニ挟ミ 鎌倉本 云塗篋

藤ノ弓持兜ヲ高紐カキ京師本 杉原錄倉本云鳥帽子引立云々 父ノ跡ニ居 禊日

テ畏ル 京師本杉原錄倉本並云爲朝ハ馬上歩 立総ヲ空ヲ翔ル翼地ヲ走ル歎サケ針

ヲモハツスト云 丁十三云々

合ハキ 右ニ見ヘタリ

赤地錦直垂 折鳥帽子 脇指 主上三条殿 行幸之条 印本

云義朝御前ニ召ル赤地錦ノ直垂ニ折鳥

帽子引立テ脇指斗リニ太刀帶タリ 半井本 二云版

ニ扱ニ參ル云々 少納言入道ヲ以テ軍ノ様ヲ召

問ハル〇京師本杉原本鎌倉本云高松殿

ニハ南殿ニ出御公卿僉議アリ信西末座

ニ候ス袖小ナル淨衣ニ家ニ傳タル小狐

ト云ムク鞘ノ太刀ヲ帶信西宣旨ヲ奉リ

テ義朝ヲ召義朝赤地ノ錦ノ鎧直垂ニ

服指小具足計ニテ太刀ヲ帶烏帽子引立
庭上ニ跪ク

小狐太刀ムク鞘 鎧直垂 小具足 烏帽子引立

右ニ見ユタリ ムクサヤハ木地
ノサヤナリ

八龍鎧 鑄懸地金覆輪鞍 主上三条殿
行幸ノ条 印 京師 本云

義朝木陣ニ歸リ物ノ具ス其日ハ家ニ傳ハ
ル八龍ヲ着タリ八龍トハ龍ヲ八ツ、打テ
一板ニ附ル故也○京師本杉原本並云八
龍トハ祖父義家後三年ノ戦ノ時八幡大

菩薩ノ使者ノ神八神守護ノ為八大龍王
ノ形ヲ金ヲ以テ内兜ノ真向鎧ノ胸板ヲシツ
ク所々ニ附ケル間八龍トメ名附タル八龍ノ
鎧ノ中ニ殊ニ秘藏ノ重宝ニ然間嫡々タルニ
依テ是ヲ相傳ス黒キ馬ノ太ク逞シキニ鑄
カケ地ノ金覆輪ノ鞍置テ引立タリ
内兜ノ真向 鎧ノ胸板 ヲシツケ 右ニ見ユタリ
紅ノ扇 日出シタル紅ノ扇 右同
京師本云其後
馬ノ腹帶ヲシメ兜ノ緒ヲシメテ既ニ打出

タルカ馬ヲ控ヘ紅ノ扇開キツカフテ云ケ
ルハ義朝武勇ノ家ニ生レテ此事ニ逢身
ノ幸ニ○杉原本鎌倉本亦並ニ同前○愚管
抄ニ云十一日ノ曉サラハトク追散シ侯ヘト云
出サレタリケルニ義朝ハ喜テ日出シタル
紅ノ扇ヲハラハラトツカヒテ義朝軍ニ
逢事何箇度ニ成侯タル皆恐レテ

兎ノ緒

右ニ見タリ

鶉丸御劔

義新院召為
義之条

印本云鶉丸ト云御劔

ヲソ下サレケル賜ルニ此御ハカセヲ鶉ノ
丸ト名付ラル、フハ白河院神泉苑ニ御
幸成テ御遊ノ次ニ鶉ヲツカハセテ御覧
シケルニ殊ニ逸物ト聞ヘシ鶉カニ三尺計ナ
ル物ヲカツキ拳テハ落シカツキ上テハ落シ
度々シケレハ怪ミヲナシケルニ四五度ニ喰
テ上リタルヲ見レハ長覆輪ノ太刀ニ諸人
奇異ノ思ヲナシ上皇モ不思議ニ思召テ
靈劔ナルヘシ是天下ノ珍宝タルヘシトテ

鶴ノ丸ト附ラレテ御秘藏有ケリ鳥羽院
傳サセ玉ヒケルヲ故院又新院へ進ラセラ
レタリシヲ今爲義ニヨ賜ケル○按東鑑
文治元年十月二十日条ニ云範頼朝臣今
夜即參二品御所申日來事云去月二十七
日自西海入洛云々於鎮西尋取仙洞之重
寶御劔鶴之丸今度進上訖是平氏黨壽
永二年城外之刻清經朝臣自法住寺殿
取御劔二腰鶴丸其隨一也云々據此則爲

義没後鶴丸藏于仙洞于蓋別一劔字可疑

長覆輪太刀

右二見ハタリ

半頬黒鞍

義朝白河殿夜討事

半井木云近久馳帰

兵共馬ニ乘義朝只今半頬カケ黒馬ニ黒

鞍置テ手打カケテ

○半頬ノ字ハホウトヨムムハシハツフリトヨム

糾村濃直岳

月數鎧

朽葉色唐綾威

大中黒矢

廿四刺

重藤弓鏡鞍

同前条印本

四扉左衛門是ヲ聞

モトカメス則西ノ川原へ出向糾村濃ノ直

岳二月數ト云鎧ノ朽葉色ノ唐綾ニテ威
ニタルヲ着二十四差タル大中黒ノ矢頭高二
負ナシ重藤ノ弓真中取テ月毛ナル馬ニ

鏡鞍置テソ乗タリケル○右印本並
諸本同

練鐔太刀 モ、ヨセ 同上 印本並諸本云伊勢

国鈴鹿山ノ強盜ノ張本小野七郎ヲ搦捕

テ副將軍ノ宣旨ヲ蒙シ景綱伊勢国伊人
故市伊藤

武者景ソカシ下臈ノ射ル矢カ立ヌカ御

覽セヨトテ能引テ射タレトモ半井御曹
本云

司ノ練鐔ノ太刀ノモ、ヨセニソ射留タ
ル五十余騎カ放ツ矢ハ一モ敵ニ立サリ
ケリ

山鳥尾矢 丸根 篋中 篋代 萌黄白鎧 三技免

漆羽矢 三所藤弓 貝鞍 胸板 射向袖 同為朝
上

是ヲ事トモセス又口ヤ敵ト思ヘトモ汝カ
詞ノ艶シキニ矢一ツ賜ハラニ受テ見ヨ且
ハ今生ノ面目又ハ後生ノ思出ニモセヨトテ
三年竹ノ筈近ナルヲ少押磨テ山鳥ノ

尾ヲ以テ作タルニ七寸五分ノ^{九根ノ}篋中過テ篋
代ノアルヲ打クハ七暫^マ持テヒヤウト射
ル真先ニ進タル伊藤六カ胸板カケス射
徹ニ餘ル夫カ伊藤五カ射向ノ袖ニ裏返
テソ立タリケル^{以上印本}○半井本云伊藤六當
年十七歿生不知ノ兵ノ萌黄匂ノ鎧ニ三
枚兜ニ漆羽ノ矢負三所藤ノ弓持鹿毛
ナル馬ニ貝鞍置テ乘

赤地錦直垂	澤浮威鎧	白星兜	中黒矢廿四刺	二
-------	------	-----	--------	---

所藤弓 同上 印本云嫡子中務少輔重盛生年

十九歳赤地錦直垂ニ沢浮威ノ鎧ニ白星ノ
兜ヲ着廿四差タル中黒ノ矢負二所藤ノ弓
持テ黄河原毛ナル馬ニ乗○半井本云重王
リニ於テハ八帛カ夫サキヲ一防防ニト思
切タリ爰ニ骸ヲ曝スヘシトソ進ケリ其出
立ニハ赤地錦ノ直垂ニサカヲモタカノ鎧
ノ蝶丸ノスソカナ物シケク打タルカ白覆リ
ニカケタルニ白星ノ兜紅ノ纒一ツフクラニカ

逆沢源

ケテ鶴毛ナル馬ニ鑄懸地ノ黄覆輪ノ鞞置
テソ乗タリケル

逆沢浮鎧蝶裾金物繫打 白覆輪掛 紅母衣鑄

懸地 黄覆輪 右ニ見タリ

猪武者 同上 印本云爰ニ安藝守ノ郎等ニ

伊勢国住人山田小三郎伊行ト云ハ又ナキ剛

ノ者カタカハ破リノ野猪武者ナルカ

十三束ニ伏 同上 半井本云安藝守ノ内ニ

ハ弓矢取ニハ誇サレタル強弓精兵ノ者ニ

強弓精兵

十三束ニニツ伏ヲソ射ケル。山田伊行
カ丁ヲ云

黒革威鎧 同毛五枝兎楯形 漆羽矢十八刺 塗

籠藤弓 黒保呂矢 二所藤弓 黒鞞 同上 印本

云黒革威ノ鎧 黒革半井 同毛ノ五枝兎ヲ半

本作楯 猪首ニ着 十八差タル漆羽ノ矢負塗

箆藤ノ弓持 半井本ニ云黒ホロノ鹿毛ナル

馬ニ黒鞞置テ乗タリケリ

黒系威 右半井本
ニ見タリ

白地錦直垂 唐綾威鎧 籠頭兎 長覆輪太刀山

鳥尾藤皮ハキノ矢 同廿四刺 箒卷弓握太ナ

ル八尺五寸 金覆輪鞍 弓子ノ草摺 同条 半井

本云為朝ハ白地ノ錦ノ直垂ニ唐綾威ノ鎧
龍頭ノ兜長覆輪ノ太刀ハキ山鳥ノ尾ノ藤
ノ皮ニテハキタル矢二十四指タル前ニ一ツ射夕
リ箒卷ノ弓握太ニテ八尺五寸ヲ持白芦毛
ナル馬ノ七寸ニハツレテ太夕逞シク尾髪
極テ卓散ナルニ金覆輪ノ鞍置テ乗タリ
ケルカ懸出テ鎮西八郎此ニ在ト名乗給フ

所ヲ本ヨリ引儲タル箭ナレハ弦音高ク
切テ發ツ御曹司ノ弓子ノ草摺縫様ニ

シタ、カニツ徹リタリ ○山田小三郎伊行カ
射タリケル矢ナリ

三人張弓 十三束矢 黒革威 大荒目鎧 黒羽

矢ニ所藤弓 黒鞍 同上 京師木杉原本並ニ云

惟行年廿八大男ノシタ、カ者之弓ハ三人
張矢束ハ十三束サケ針ヲモ射ニト思
フ者之ケルカ黒革威ノ大アラメノ鎧着テ
黒羽ノ矢負ヒニ所藤ノ弓持テ鹿毛ナル

馬ノ太ク逞ニキニ黒鞍置テノ乗タリケル

○山田小三郎推行力射之印板本
伊行同半井本是行同

大弓ニサキ細ノ矢 同上半井本ニ為朝件ノ

大弓ニサキノ細ノ矢打ツカヒ又云例ノサキ

細ノ矢打ツカヒテ已カ詞ノヤサシケレハ矢

一ツトハラセシ

鞍前輪尻輪 同上 印本云為朝能引テ兵ト射

ル山田小三郎力鞍ノ前輪ヨリ鎧ノ草摺ヲ

尻輪カケテ矢サキ三寸餘ヲ射通タル○半井

本云是行力鞍ノ前輪ハタト射破テ草摺ノ

夕、ナハレタルヲ射徹シ主ヲ射抜テ尻輪

ニ射附タリ

鎧ノ障子板内兜 同上 京師本杉原本並云為

朝ノ鎧ノ障子板ヲ縫様ニシタ、カニソ射

閉テタル ○山田推行力射
タルナリ

鞍坪前輪尻輪 白河殿印本云公程ニ夜ニ

漸ク明行ニ主モナキ放レ馬源氏ノ陣へ

カケ入タリ鎌田次郎是ヲ取セテ見ルニ鞍

壺ニ血タマリ前輪ハ破レテ尻輪ハ鑿ノ如
ナル矢尻留レリ。○山田惟行カ馬ナリ

半頭 同上 印本云相摸國ノ住人鎌田次郎正

清ト名乗 中畧 能引テ發ツ夫カ御曹司ノ

半頭ニカラリト中リテ兜ノエコロニ射附

タリ○半井本ニ云一ノ夫ヲ發テケレハ左ノ

頬サキ半頭ノ間ヲ射削リ兜ノ手先ニ

射付タリ

兜ヲ脱テ高級ニ掛 同上 半井本云下野守ノ

前ニ馳參テ馬ヨリ飛テ下リ兜ヲ脱キ高級

ニカケ弓服ニ挟ミアエガアエク申ケルハ

○正清カテイ

赤地錦直垂 **黒系威鎧** **缺形打兜** **黒鞍** 同上 印

本ニ云大将ハ赤地ノ錦ノ直垂ニ黒系威ノ鎧

ニ缺形打タル兜ヲ着黒馬ニ黒鞍置テ乘

タリケリ ○大将ハ義朝

妻手ノ草摺ノハツレ 同上 印本云扶父行成

馳合テ能引テハナツ矢ニ與次 手取ノカ妻

△御曹司須藤九郎
召テ敵ハ大勢ナリ
若矢種盡テホ
物ニテハ一騎カ百
騎ニ向フトモ終ニ
叶フミ坂東武者
ノ習大將軍ノ前ニ
テハ親死子討レレ
トモカリミスイヤカ
上ニ死重テ戰フト
ソ聞イサハ大將
ニ矢風負セテ引
退ケント思フハイカニ
ト宣ハ家末然火
ク候但御謀候ハ
ニト申ケレハ何条カ
ルコトアルハキ

手ノ草摺ノハツレヲ射サセテ引退ケハ景

重勝ニ乗テソカケ入ケル景重ハ片桐八郎本末

楯同上半井本云筑紫八郎ノツカセタル楯

ヲ奪ヒ取是ヲツキテ軍セヨヤ殿原トテ

投ケ出シタリ○片桐小八郎景重カ所為ヲ云フ

大夫 夫坪 兜星 同上印本云為朝カ手本

ハ覺ユル物ヲトテ例ノ大夫ヲ打番ハ固カシ

テ兵ト射ル思フ夫坪ヲ誤ラス下野守

ハ兜ノ星ヲ射削リテ○半井本云龍頭

ニ鍬形打タル兜ノ星七八カラリト射散シ

テ後ナル御室ノ門ノホウタテノ板ニ籠

中過テイトオシタル

龍頭ニ鍬形打タル兜 右ニ見タリ

鞍ノ前ハ輪馬ノユカニ 同上半井本云下野

守目昏テ馬ヨリ落下ニトスルカ鞍ノ前

ツ輪馬ノユカニニ取附テ兜ヲ探レハ矢モ立

サリケレハ

鎧名所 同上印本云為朝兄ニテ渡ラセ給フ

義朝手細カキクリホ向汝聞及フモ似合ケニ年ヨリアツケレト

上存スル旨有テ角ハ仕候へトモ誠ニ御免
ヲ蒙ラハ二ノ矢ヲ仕ラニ真向内免ハ恐モ
候障子ノ板カ揃檀弦走カ胸板ノ真中カ
草摺ナラハ一ノ板トモ二ノ板ハ矢坪ヲ慥
ニ兼テ仕ラントテ既ニ箭取テ番ハレケ
ル所ニ上野國住人深泉七郎清國ツト懸
寄ケレハ為朝是ヲ弓手ニ相受テハ夕ト
射ル清國カ免ノ三ノ板ヨリ真^ス違ニ左ノ
小耳ノ根へ篋中計射込レタレハ暫モ夕ト

ラス死ニケリ○京師本杉原本云御鎧ヲ
ハ八龍ト見申テ候譬言如何成御鎧ニテモ候
へ二ノ矢ニ於テハ申請ニスルニ候矢坪ヲ
指テ兼リ候ハニ真向御頸ノ骨ハ恐モ
候クツケイ弦ハ三ノ障子ノ板^バ立^イ人
上爰ソ射ヨト兼テ一矢仕リ候ハニ○京師
本杉原本云悪七別當クツケイ射サセテ
落ニケリ 右同条ノ末ニ見タリ

兜鉢付板

同上 京師本杉原本ニ云為朝録田

ヲ見ントフリ仰キタル左ノ頬サキヲ射削
テ兜ノ鉢付ノ板ニ射付タル

上矢ノ鏑中刺 同上 京師本杉原本云ハケタ

ル矢ヲ差ハツシ又上矢ノ鏑ヲハケ替テ須

藤九郎ニ是ヲ見ヨ中刺ナカサシニテ下野殿ヲ射

落ニ奉ラント思ヘトモ旁存スル旨アル

ハ着置差ク劔ヲハツケ申サテ矢風討ヲ

引セ膽ヲツフサセ申サントテ擧コラシ手高ニ

差上鏑ノ上ニテ引カケテ發サレタリ

征矢鏑矢 鏑目 金卷 手先 十五束 同上 印

本云大庭平太景義同三郎景親トソ名乗
ケル御曹司是ヲ聞玉ヒ西国ノ者共ニ皆
手ナシノ程ヲ見セタレトモ東國ノ兵ニハ
今日始ノ軍ニ征矢ヲハ度々射タリシ
カ鏑矢ニテ射ハヤト思ヒテ目九ツ指タル
鏑ノメハシラニハ角ヲ立風返ニ厚ククラ
セテ金卷カ子ニ朱サシタルカ普通ノ鏑目程
ナルニ手先六寸シノキヲ立テ前一寸ニハ

ミ子ニモ又オソ附タリケル鎬ヨリ上十
五束有ケルヲ取テ番ヒクサト引テ發
サレタレハ御所中モ響テ長鳴シ五六段半
ニ控ヘタル大庭平太力左ノ膝ヲ片手切ニフ
ツト射切馬ノ太腹カケス濶^{カス}リケレハ鎬ハ
碎テ散ニケリ馬ハ尾風ヲ倒ス如クカハト倒
レハ主ハ前ヘアミサレケル○京師本杉原本
半井本並云景義ノ妻手ノ膝節片手
切ニツト射切テ鎬ノミツヲカ子馬ノオリ

ホ子五枚サツトキレテ矢ハ後へ洞リテ大
地ニ立鎬ハワレテ此方へサツト散馬ハ一動
モ働カストウト伏ス

馬ノオリホ子 鎬ノミツヲカ子 右ニ見タリ

又半井本左ノ如シ

征矢 鋒矢 墓目 野矢 鎬矢 大雁股 鎬ノカ革ミツ

ヲ馬ノ折骨 半井本云為朝家季ヲ招キ

坂東ノ者ニ手ナミ見スル事ハ是カ始メノ征
夫トカリ夫ノ物ヲ徹スハ常ノ下ニキヤツ

原ヲ墓目ニテ射ハヤト思フハ如何左候ヒ
ナント申征矢ヲモ能羽ニテハハカサリケル
増テ野矢ハ晴ノアラハコト能羽ニテモハカメ
夜晝朝如リ狩ナレハ昨日ハイタルハ今日ノ
狩ニ射損ス今日ハ夕矢ハ明日狩ノ料常ノ
狩ナレハ篋モ羽モコラヘサリケレハ鷄ノ
羽モ鳥ノ羽モハキ付、ハキケルカ京へ
上リテ後軍アルヘシト聞テ鎬ノ射タキ
事モコソアレ野矢一腰尋常ニハダト云余

目九
目サ
目キ
目ハ

例ノ三年竹ノ節近ナルヲ節討コソケ
テ洗モセス結構シタル余鶴ノ下白ヲ藤ハ
キニソハキタリケル鎬ハ朴ノ生木ヲ一昨
日切寄タルヲカイソイテ手々ニクレトテ
クラセタル人々ノ墓目ト云ヨリモ猶八寸
長ク大ニ目九サニ目柱ニハ角ヲソシケル
カ子卷ニ漆一ハ夕夜部サニタルカ能モ
ヒヌニ子サキ六寸口六寸ナイハ八寸ノ
大雁股ヲ子子スケテミ子ニモ能程又

ヲ付タレハ小サキ手鉾ノニツ打違ヘタル
様ナリ筈ヨリ下ナカラヨリ上十束子
タケニ鑄ノ上ヘカラト引懸テ腰ノ骨射
切トヒヤウト放タリケレハ長鳴シテ御
所中ヲ響ク五六段討ニ控ヘル景義カ
膝節ヲ片手切テ射切鎧ノカ革ミツヲ
皮馬ノ折骨ニツヲ射切馬ノアサタヘ
徹リテ門柱ニ立ケル

手鉾

右ニ見タリ

兜ノ鉢内兜

同上 印本云悪七別當太刀ヲ拔

テ齋藤カ兜ノ鉢ヲ下ト打ツウタレナカ
ラ実盛内兜ヘキツサキ上リニ打込ケレハ
誤タス悪七別當カ首ハ前ニソ落タリケル
滋目結直垂 裾繩目鎧 **黒鞍** 同上 印本云金
子十郎ハ滋目結ノ直垂ニ裾繩目ノ鎧着
テ鹿毛ナル馬ニ黒鞍置テ乗○半井本京
師本杉原本並ニ云武藏国住人金子十郎家
忠葦毛ナル馬ニ乗黒皮威鎧着テ紅ノ纒

大カナルヲ家忠上ニ
成テ押ハテ頸ヨカハ
トスル處ニ高間ノ
三節オリカサナシテ
第ヲウメセシト金
子カ甲ヲ引仰テ頸
シカントシケルヲ下
ナル敵ノ左ノキヲ
膝ニテ敷詰上ナル
敵ノ弓手ノ草摺
引舉寄返シテ柄
拳モトホレト三刀ヲ
シテヒルハ処ニ下ナル
敵ノ頸ヲ取カカ
サキニサシテケテ

ヲソ懸タリケル茸毛以下半

紅母衣 右ニ見タリ

木蘭地直垂 紫革腹卷 同上 印本云木蘭地

ノ直垂ニ紫革腹卷着栗毛ナル馬ニ乗リ高

間ノ四郎ト名乗ト名乗押雙テ廻テ落高間ノ兄弟是間ニル

具足草摺ノハツレ 同上 京師本杉原本半井

本並ニ云武藏国住人金子十郎家忠 中畧

金子拔テ持タル刀ナレハ下ナル高間ノ

四郎カトメヲ刺カハス刀ニテ 下ナル云ハ半井本ニ十三

トノヲ刺

高間ノ三郎カ具足ノ草摺ノハツレヨリ 京師

本云弓手ノ草摺 上サハニ一刀刺テユイヤツ

トツキノケタリ

高紐ニ弦セカル 矢坪脇當 同上 印本云義濃

國住人平野平太同國人吉野太郎ト名乗

ヲ懸入ケル所ヲ御曹司件ノ大鎗ヲ以テ

ヒヤウト射玉フカ高紐ニ弦ヤセカレケニ

思フ矢坪ニ下リツ、平野平太カ左ノ脇

當ヲ射キラレテ馬ノ太腹アナタヘツト

射通サレハ真逆ニ倒レタリ

藍摺直垂 卯花威鎧 星白兜 同上 印本

云其時信濃國住人根井大弥太藍摺ノ直
垂ニ卯花威ノ鎧ニ星白ノ兜ヲ着佐目馬ナ
ル馬ニ乗タル

魚鱗 鶴翼 同上 印本云敵魚鱗ニ懸破ラ

ニトスレハ御方鶴翼ニ連テ射セラマカス
御方陽ニ開テ圍ニトスレハ敵陰ニ閉テ
圍ニレハス

張絹直垂 薄金鎧 緋威 鉄形打兜 白覆輪鞍

印本云六條判官為義張絹ノ直垂ニ薄金ト
云緋威鎧ニ鉄形打タル兜ヲ着連錢葦毛

ナル馬ニ白覆輪ノ鞍置テソ乗レタル ○貞大
按張絹
ハリキヌトヨムハ非ナリチヤウ
ケントヨムヘキナリ

墓目音 夫叫音 同上 半井本云凡門々ニハ墓

目ノ音夫叫ノ音隙モナク云大ハ林林
鎧ノ引合 同上 京師本杉原本並云根津神平

懸出タリ 紀平次大夫組ニト相近ツク所ヲ

神平能引テ射ル鎧ノ引合セテ篋深ニ射ラ

レ落

ノケ兜

同上

京師本杉原本云太刀拔持ノケ

兜ニ成テ喚テカク

○按ノケ兜ト云ハ兜ノ緒

ニルヒテ兜アヲノケニナ

リタルヲ云フアヲノケ

籠矢數

新院左府御
没落之条

京師本杉原本半井本

云抑為朝此軍ニ二十四差タル矢二腰十八差

タル矢三腰十六差タル矢三腰負テルカ義朝

ノ兜ノ星ヲ射削リタルト大庭力膝節射切

タルト二筋ノ矢ナラテハアタ夫ハナカリケ

リ○十六差タル矢三腰負ケルカト云丁京師

本ニハ不出シテ九ツ指タル矢一腰射タリケ

ルカト云○半井本云為朝此軍ニ矢三腰ヲ

ソ射タリケル二十四指タル矢一腰十六指タ

ル矢一腰九ツ指タル野矢一腰其内義朝ノ兜

ト云

野矢

右ニ見ヘタリ

具足

新院御出家之条

京師本杉原本云家弘父子

モイツ慣ハ又御輿舁奉リ彼方此方ト仕

ケレハカモ弱リハテ働クヘシ臣覺ス合戦
ニハ疲レツ具足ニハオサレタリ身ノアリ様
我ニモ非ス覺ケレハ自害ヲセハヤト思フコ
度々也

緋威鎧

赤草威鎧

洗草威鎧

義朝幼少身
悉被誅余

三人

ノ君連各西ニ向テ手ヲ合禮并シケルソ哀
ナル是ヲ見テ五十余人ノ兵モ皆袖ヲソ濡シ
ケル以上諸本同此次ノ
文下ノ如シ○京師本杉原本半井本
並云其中ニ波多野カ赤草威京師本ニ
ハ緋威ノ鎧

ノ袖ハ洗革ニヤ成ラム

白旗赤旗

新院遷幸
讚岐之条

印本云新院仁和寺ヲ出サ

セ玉フ御迹ニ不思議ノ事アリケリ清盛義

朝洛中ニテ合戦スヘシトテ源平兩家ノ郎

等白旗赤ハ夕ヲサシテ東西南北へ馳違フ

浮沓

為朝鬼島
渡之条

印本云嶋ノ名ヲ問玉ハ鬼

カ島ト申ス然レハ汝等ハ鬼ノ子孫カサシ候
サテハ聞ユル室アラハ取出セヨ見ニト宣ヘハ
昔正ニク鬼神ナリニ時隱蓑隱笠浮沓劔ナ

古書薄紅色
ヲ退紅ト云ヒ
又批赤ト云又
荒赤ト云アラ
ソメハ洗赤ニ
テ紅ノ色ヲ洗
ハカシタル心ヲ
云ナリ

ト云宝有ケリ其比ハ船ナケレトモ他国ヘ
モ渡リテ日食人ノイケ勢ヲモ取ケリ

カナセノ鎧義朝白川殿
夜討之条京師本杉原本並

云八幡太郎義家貞任追討ノ時將軍三郎

武則カ勸ニ依テカナセノ鎧三領ヲ木ノ

枝ニカケテ射徹シタリシカ○貞丈云カナ
マセトハ草ノ

扎鉄ヲ交テ
編タルナリ

合木為朝生捕
遠流之条印本云爰ニ佐渡兵衛重貞ト

云者宣旨ヲ蒙テ國中延江ヲ尋子ケル中畧

九月二日湯屋ニ下リタル時三十十余騎ニテ押

寄テケリ為朝真祿ニテ合木ヲ以テ數多

ノ者ヲハ打伏タレトモ大勢ニ取籠ラレテ云

カヒナク搦ラレニケリ○貞丈按スルニ人杲

ハ武器ニアラス合木ノ二字アフコトヨムヘシ

アフコハ拐ノ字ナルヘシ拐ノ字アフコトヨ

ム荷棒ナリ此条ニハ水桶ヲ荷フ棒ヲ云ナ

ルヘシ京師杉原半井本ナトニハ柱ヲ一本引

拔テウチカツキ走ラレハ大勢追カケル立歸

リ打殺シ敵キ殺ストアリ録倉本ニハ柱ヲ引抜コトナク茶擧テニテ散々ニ打拂トアリ首ヲ行器ニ入義朝幼少弟京師本杉原本並

云波多野用意シタリケル足高ホカイニ三ツノ首ヲ認メ入カタカタ明テ置ケレハ乙若是ヲ見マリテ我首置ニスル為ニコソト思ヒケル

軍神 京師杉原並云公ハ軍神ニ祭ラントテ

暫ク弓ヲ引持テ表ニ進タル伊藤六カニシ中ニ押當テ發テタリ

参考平治物語 参考者同于保元物語

イカ物作太刀 鏡鞍 信賴謀卷一印本云義朝申

サレケルハ中畧加様ニ憑仰侯上ハ使宣侯ハ、當家ノ浮沈ヲモ試ヘシトコソ存侯ハト申

サレケレハ信賴大キニ喜テイカ物作ノ太刀一腰杉原本井本作二腰京師本作三腰自取出シ且ハ悦ノ初ト

テ引シタリ義朝謹テ請取テ出ラレケルニ白ク黒クサル躰ナル馬京師本杉原本半井本並云黒馬ノ同様

ナルニ足鏡鞍置テ引立タリ○真丈云サル躰ナルトハ可然躰

ト云フ夜陰ノ下ニハ相明振奉サセテ此馬ヲ見合戦ノ出立ニ馬程ノ大幸ハ候ハ近

腰刀 信西カ首 実檢之条 愚管抄云能力キ埋タリト思

ヒケレト穴口ニ板ヲフセナシトシタリケル

見出シテ掘出タリケレハ腰刀ヲ持テア

リケルヨムナ骨ノ上ニ強クツキ立テ歿テ

アリケルヲ掘出シテ首ヲ取テ ○右信西土中ニ隠レタルヲ

掘出ナリ ○愚管抄ハ平治

物具母衣 從六波羅被立 早馬於紀州条 印木云重盛熊野参

詣王現當安穩ノ御祈禱ニテコソ候ラノ急

御下向アル个シト申サレケレハ皆此議ニソ

同シケルソレニ取テ敵ニ向テ帰洛セニスカ

物具一領モナキヲハ如何スヘキト歎キ玉

ノ處ニ筑後守家貞長櫃ヲ五十合重ケニ

穿セタリシヲ取寄テ五十領ノ鎧五十腰

ノ矢其外物ノ具トモヲ取出シテ奉ル弓ハ如

何ト宣ヘハ竹ノ拐アツコノ中ニ節ヲ入突タリケレ

ハ即五十張ノ弓ヲ取出セリ 京師半井杉原

用意ソシタリケル云々 ○清盛此時熊野詣彼地

ニ在リシ京軍起ルヲ聞テ清盛クニノヨリ飯ル

重目結直垂 洗革鎧

右同 臈テ家貞ハ重目

結ノ直垂ニ洗革鎧着テ太刀脇挾ニ大将

軍ニ仕ヘ奉ル者ハ角コソ用意スレハト申

セハ侍共哀レ高名哉トソ感シテ

淨衣ノ上ニ鎧着 ナキノ葉射向ノ袖ニ付ル

右同

筑後守六波羅ノ御一門モ左コソ寛束ナク

思召ラニ急カセ玉ヘト申セハ清盛モ然ル

ヘシトテ都ヲ差テ引返ス大将以下皆淨衣

ノ上ニ鎧ヲ着 以下皆ノ三字京師杉原半井本並作清盛重盛又云御熊野ニ頼

テカクル諸人ノカサシニサセルナキノ葉ヲ射向ノ袖ニソ附タリケル云々

白鞆白覆輪鞆

右同 印本云我先ニト進ム程

ニ和泉國大鳥ノ宮ニ着玉フ重盛秘藏セラ

レケル飛鹿毛ト云馬ニ白鞆置テ 毛ノ下半井本右丸字白

神馬ニ引玉ハ清盛

一首ノ和歌アリ

カヒコソヨ帰ハテナハ飛カケリ育ニ立ヨ

大鳥ノ神 京師半井井帰リハテ

蔭繪ノ細太刀

膚ニ腹卷着

光頼卿 印本同十

九日公卿僉議トテ催サレケリ勸修寺左衛門督光頼卿此程ハ信頼卿ノ拳勳過分也トテ不參ニテオハシマシケルカ參内シテ美ラニトテ殊ニアサヤカニ束帶引繕ヒ蒔繪ノ細太刀ヲオトナシヤカニ帶玉ヒ乳母子ノ挂右馬允範能ニ層ニ腹卷着セ雜色ノ装束ニ出立セ自然ノ事モアラハ人手ニカクナ汝カ手ニ懸テ光頼カ首ヲハ急キ取シトテ御身逆ク置杉枝ヲ鎧ノ袖ニサス流

鎧馬

右同 条

印本ニ大貳清盛ハ先稻荷ノ社ニ

參各杉ノ枝ヲ折テ鎧ノ袖ニ差テ六波羅ハソ着ニケル○京師杉原半井本並云熊ノへ參ル人ハ稻荷へ參ル丁ナレハ太宰大貳清盛ハ切部王子ノナキノ葉ヲ稻荷ノ宮ノ杉ノ葉ニ手向ツ悦申ノ流鎧馬射サセ都合其勢一千餘騎同二十五日ノ夜半斗ニ六波羅ヘコソ着ニケレ○愚管抄云清盛ハイニ夕參ツカテニカハノ宿ト云ハ

下ツキ
○其外キヨケル雜色
四五人召具シテ大軍
陣ヲ張テ所々門々
ヲ堅守護シケルヲ
事トモセサキタカラ
カニオハセテ入タマハ
兵共モ大ニ恐奉リ
ワシヒラメ矢ヲソム
テ通シ奉ル

夕ノヘノ宿也ソレニ着タリケルニ脚刀走
テカ、ル事京ニ出キタリト告ケレハ、中畧
熊野ノ堪快ハ侍ヲ數ニハ五ナクテ鎧七
領ヲソ弓矢逆皆具ニ頼モシク取テ出左
右ナクトラセタリケリ又宗重カ子ノ十三
ナルカ紫革ノ小腹卷ノアリケルヲソ宗
盛ニハ着セタリケル○越前守基盛ト十三ニナ
人トヲ熊野へ具ニケル由同書ニ見ユ
紫革小腹卷 右ノ愚管抄ニ見タリ

黒系威腹卷 黒革腹卷 同卷 主上六波羅 行幸之条 印本云清盛

ノ所等伊藤武者景綱黒系威腹卷ノ上ニ杉原

本魚黒系威字京師本半井本唯云景綱小張着テ云 小張着テ雜色ニナ

ル館太郎貞康 館京師半井本並作貞泰京師本作

貞泰 黒革ノ腹卷ノ上ニ牛飼ノ装束ニテ御

車ヲ仕ル 京師杉原半井本並云指太郎髻ヲ乱

守刀ニ太刀契ノ小鉤付ル 右同 愚管抄云義朝

ハ其時信頼ヲ日本一人不覺人ナリケル人
ヲ憑テカ、ル事ヲ云出シソルト申ケルハ

少モ物モ丑イハサリケリ紫震殿ノ大床ニ
立テ鎧トリテ着ケル時太刀契ノ唐櫃ノ
小鈎ヲ守刀ニ付タリケルヲ師仲ハ内侍
所ノ御躰ヲ懐ニ入テ持タルケルタベ其鈎是
ニ具ニ進ラセテ持ニ其刀ニツケテ無益也ト
云ケレハ誠トテ扱ヲコセタリ

赤地錦直垂 紫下濃鎧 菊裾金物 金作太刀 白星

兜 缺形物具 沃懸地金覆輪鞍 源氏勢 印木云

悪右衛門督信頼ハ赤地錦ノ直垂ニ紫下濃

ノ鎧ニ菊ノ裾金物 京師杉原半井本並云菊ノ丸

打タルニ金作ノ太刀ヲ帶キ 京師半井本無 白星ノ兜ニ

缺形打タルヲ猪頭ニ着ナシ 京師半井本無 白星兜云々句

紫震殿ノ額ノ間ニ尻ヲ懸テソ居給ヒケル

京師杉原半井本並ニ額ノ間 生年二十七 大男

ノ肩目ヨキカ美麗ノ物具ハ着玉ヒタリ具心

コソ知子トモアハレ大將ヤトツ見タリケル

馬ハ奥州ノ基衛カ六郡一ノ 京師本云一ノ黒ト

一ノ黒 馬トテ秘藏シケルヲ院へ進セ

一ノ黒
一ノ部黒
二ノ黒

ケル之黒キ馬ノ太ク逞シキカ八寸餘ナル
ニ沃懸地ノ金覆輪ノクラヨイテ左近ノ櫻
ノ樹ノ下ニ東頭ニ引立タリ

紺地錦直垂 萌黄白鎧 鴛下金物 長覆輪太刀

龍頭兜 白覆輪鞍 右同 印本云越後中将成親ハ

紺地ノ錦ノ直垂ニ萌黄白鎧鴛ノ下金物打

タルニ長覆輪ノ太刀ヲ帶 京師杉原半井本並云信賴卿ト一所ニ

居給ヒケ 龍頭ノ兜ヲ着ケル 京師半井本不載兜

白蘆毛ナル馬ニ白フク輪ノ鞍置テ信賴卿

ノ馬ノ南ニ同頭ニ引立タリ 京師杉原半井本並云鶴毛ナル馬

ニイカケテノ鞍置テ右近ノ夕子ハナノ樹ノ本ニ東向ニ引立タリ云々但杉原本ニイカケ地ヲ

白覆輪ニ 成親今年二十四歳容儀コシカラ

人ニ勝レテノ見ヘラレケル

赤地錦直垂 鉄形五枝兜 イカ物作太刀 黒羽矢

節卷弓 黒鞍 右同 印本云武士大將左馬頭義

朝ハ赤地錦ノ直垂ニ黒系威ノ鎧ニ 京師杉原本半井本

並云義朝練色ノ魚紋ノ直垂ニ楠魚トテ黒系威ノ鎧ニ獅子ノ丸ノ裾金物ヲ打ケル云々

但半井本練 鉄形打タル五枝兜ノ緒ヲシメ

色作練貫

イカ物作ノ太刀ヲ帶黒羽ノ夫負ヒ節卷
ノ弓持テ黒鷄毛ナル馬ニ黒鞍置セテ日華
門ニソ引立タル年三十七眼サシ頰魂自余ノ
人ニハ替リタリ

插魚鎧

右ニ見タリ

黒絲威鎧

練色兎綾直垂

獅子丸裙金物

練貫

兎綾直垂

右ニ見タリ

練色兎綾直垂

八龍鎧

高角兜

兜緒

石切太刀

石打矢

重藤弓

鏡鞍

右同 印本云嫡子悪源

太義平ハ生年十九歳練色ノ兎綾ノ直垂ニ

京師杉原本並云義平
禍ノ直垂云々

八龍トテ胸板ニ龍ヲハツ

打テ付タル鎧ヲ着テ高角ノ兜ノ緒ヲシメ

石切ト云太刀ヲ帶石打ノ夫負重藤ノ弓

持テ

重藤京師杉原本
并本並作所藤

鹿毛ナル馬ノハヤリ

切タルニ鏡鞍置セテ父ノ馬ト同頭ニ引立

タリ
〇石切末ニモ
見ハタリ

禍直垂

所藤

右ニ見タリ所藤ハ二所藤ノ二ノ

字脱カ

朽葉直垂

澤泻威

沢泻鎧

白星兜

薄縁太刀

白篋白鳥羽矢

二所藤弓

白覆輪鞍

右同印

本云次男中宮大夫進朝長八十六歳朽葉直
垂ニ沢浮トテ沢浮威ニタル重代ノ鎧ニ白星
ノ兜ヲ着薄緑ト云太刀ヲ帶白篋ニ白鳥
ノ羽ニテ作タル矢負ニ藤弓持テ白鳥京師杉原
半井本作鶴ニ所藤作笛葦毛ナル馬ニ白覆
輪ノ鞍置テ兄ノ馬ニ引添テテコソ立タリ
ケル

鶴羽作矢

笛藤弓

右ニ見タリ

緝直垂 産衣鎧

白星兜 兜緒

髭切太刀 十二差

染羽矢 重藤弓

拍木兔摺鞍

右同印 本ニ云

右兵衛佐頼朝ハ十三緝直垂ニ

緝京師杉原本
本作長緝半

井本浪ケニヤウノ直垂云々源太刀産衣ト云鎧ヲ着白

星ノ兜ノ緒ヲニ髭切ト云太刀ヲ帶十

二差タル染羽ノ矢負重藤ノ弓持テ栗毛

ナル馬拍ミ、ツク摺タル鞍置是モ一所ニ

引立タリ

長緝直垂

浪ケニヤウノ直垂

右ニ見タリ

源太産衣鎧 髭切太刀

右同 印本云此産衣髭切

ハ源氏重代ノ武具ノ中ニ殊ニ秘藏ノ重寶ニ

八幡殿ノ幼名ヲ源太トソ申ケルニ歳ノ時

院ヨリ進ラセ^ヨ御覽セシト仰ヲ蒙リ給ヒ

テ ○系圖ニ云義家長治二年卒六十七一云嘉

年卒六十八據此義家生當長曆三年又一云嘉

兼三年卒六十八據此義家生當長久二年長曆長久

共後朱雀帝朝也今按三條院者寛仁元年既崩當時

唯有一條院諱敦明三條帝太子寛仁元年准太

天皇上一院号永兼六年崩此云院者蓋是矣

熊ト鎧ヲ威シ袖ニ居テソ見参ニ入ラレケ

ルサテコト源太力産衣トハツケラレケレ

胸板ニ天照大神正八幡大菩薩ト鑄ツケ進

ラセ左右ノ袖ニハ藤ノ花ノ咲カ、リタル様

ヲ威セルナリサテ髭切ト申ハ八幡殿貞

任宗任ヲ攻ラレシ時度々ニ生捕者十人ノ

首ヲ打^{十人}皆髭トモニ切レケレハ

髭切トハ名付タリ奥州ノ住人文壽寺ト云フ

鍛冶力作也 奥州以下至此京師本 昔ヨリ嫡

嫡ニ相傳セシカハ悪源太ノ傳ヘ玉フヘ

キニ三男ナレトモ頼朝授リタヘヒケルハ

終ニ源氏ノ大將ト成玉フヘキ驗ナリ

糾直垂 黒糸威腹卷 左右小手 射蝶 折鳥帽子

待賢門 軍之糸 印本云公程ニ六波羅ノ皇居ニ六公卿

會議右ニ清盛ヲ召レテリ 糾ノ直垂ニ黒

糸威ノ腹卷ニ左右ノ小手ヲ差テ 小手京師 杉原半井

三本作 射鞞 折鳥帽子引立テ大床ニ畏ル

赤地錦直垂 搥匂鎧 蝶裾金物 籠頭兜 兜緒小鳥

太刀 切府矢 重藤弓 柳櫻摺貝鞍 右同 左衛門

佐重盛ハ生年二十三今日ノ軍將大將ナ

レハ赤地錦直垂ニ搥匂ノ鎧蝶ノ裾金物 半井本ニ

三ツ宛 打云ニ 打タルニ籠頭ノ兜ノ緒ヲシメテ小鳥

ト云太刀ヲ帶切府ノ矢負重藤ノ弓持テ

黄鶉毛ナル馬ニ柳櫻摺タル貝鞍置セテ

乘玉ヘリ 右印本

白旗 赤旗 右同 印本云梅壺桐壺籬壺紫

震殿ノ前後東光殿ノ脇ノ壺迄兵ヒト

並居タリ 是 皆源氏ノ勢ナレハ白旗二十

余流打立タルノ大宮面ニハ平家ノ赤旗

三十餘流差揚テ勇ニ進メル三十餘騎一
度ニ関テ咄ト作りケレハ大内モ郷音キ渡
テ夥シ

大鎧

右同

印本云大ノ男ノ大鎧ハ着タリ馬

ハ大キナリ衆煩フ

信賴ノ

射向袖

押付

篋カツキ

唐皮鎧

右同

印本云

鎌田兵衛延サシト十三束取テ番ニ能引

テヒヤウト射ル重盛ノ射向フ袖ニハタト

中リテ飛返ル

射向袖京師杉原半井

三本共ニ作押付 聽テニ

又能引テ追様ニ
ノカクル程射込タリ
馬ハ屏風ヲ返ス如ク
倒レハ材木ノ上ニハ子
オトサレ甲モオケテ大
童ニ成テテ鎌田堀
河ヲ駛越テ重盛ニ
クニト落テ重盛
近付テハ叶ハシトヤ思
ハレケシテハハスニテ
鎌田ケ甲ヲ銚マテト
突ツカレテユラユル
間ニ甲ヲ取テ著
ツ、緒ヲヨクユンシ
メラレケレ

ノ矢ヲ射タリケレハ押付ニ下ト中リテ

押付京師杉原半井

三本共ニ作射向 篋カツキ碎ケテ逃飯

レリ悪源太是ハ聞ユル唐皮ト云鎧コサ

ニナレ馬ヲ射テ落ニ所ヲウテト下知

セラレケレハ

鞍手形

右同

印本云十二月二十七日巳刻

計ノ事ナルニ一村雨サツトシテ風ハ烈シ

ク吹タリケリ

諸本並云物具水テ

タヤスカラヌ云ハ 鎌田カ鞍

ノ前輪ニ水筋井タレハ衆兼ケリ悪源太

是ヲ見玉ヒテ手形ヲ付テ乗レヤト宜
ケレハ打物扱テツフツツト手形ヲ切
テソ乗タリケル鞍ニ手形ヲ付ル丁此時
ヨリソ始レル

赤旗 赤駿

大旗

腰小旗

右同

印本云平家ハ

赤ハタアカ駿日ニ映シテ耀ケリ源氏ハ大旗
腰小旗皆並^押テ白カリケル

熊手

右同

印本云鎌田カ下人八町次郎ト

テ夫カノ剛ノ者

中畧

此者三河守ノ聞ユ

ル早馳ノ名馬ニ兩鐙ヲ合テ懸ラレケルニ
少モ劣ラス追着テ兜ノテヘニ熊手ヲ
打カケント續テ走ケレハ頼盛モ兜ヲ打
願ケ打願ケアヒシラハレケレハ五六度
ハカケハツシケルカ 京師杉原半井三本云鎌
田ヨレヤ八町次郎ト云
ケレハサミノヒ
上リ云々 終ニテヘニ打カケテ上
イヤト引ハ三河守既ニ引落サレヌヘク
見ヘラレケルカ帯タル太刀ヲ引扱テシ
ト、切熊手ノ柄ヲ手本二尺計置テ

ツニト切テ落サレケレハ八町次郎ノケニ

倒レコロヒケリ 兜ノテヘシ 右ニ見タリ

拔丸太刀 右同此太刀 切タルヲ云フ 熊手ヲヲ拔丸

ト云故ハ故刑部卿忠盛池殿ニ晝寐シテ才

ハニケルニ池ヨリ大蛇アカリテ忠盛ヲ吞

ントス此太刀枕ノ上ニ立タリケルカ自ラ

スルリト拔テ蛇ニカ、リケレハ蛇恐レテ

池ニ沈ム太刀モ鞘ニ返リシカハ蛇又出テ

吞ントス太刀又拔テ大蛇ヲ追テ池ノ汀

ニ立タリケリ 京師杉原半井本云太刀又拔テ

ト云、忠盛是ヲ見王ヒテコソ拔丸トハ附

ラレケレ當腹ノ愛子ニ依テ頼盛是ヲ

相傳シ玉フ故ニ清盛ト不快也ケルトソ

聞ヘシ伯耆國大原真守カ作ト云、

○當腹以下是ニ至マテ京師半井本ニ載セス按
ルニ拔丸者元伊勢ノ土人カ太刀ニ故有テ木枯
ト名ク忠盛請テコレヲ得タリ其説詳ニ盛表記
ニ見ヘタリ併ニ考フハシ

首ヲ馬ニ付ル 右同 印本云真基王一騎ノ

武者ニ馳向ヒ御邊ハ誰ト問ヘハ讃岐國

住人大木戸八郎ト名乗モハテ子ハシマ首
ノ骨射落シ其首取テ是見玉へ齋藤ト
ノ頭ノ殿ノ見参ニヤ入ル捨ヤスルト云
ケレハ今朝ヨリ乗疲カニタル馬ニ生首
付テ何カセニイサ捨ニト云ケルカ

搔拵物具

清盛兜ヲ逆ニ着

義朝寄六印本
波羅糸

云云程ニ六波羅ニハ五條ノ橋ヲ毀寄セ
搔拵ニ搔テ待所ニ源氏即押寄テ関ヲ
咄ト作ケレハ清盛鯨波ニ驚テ物ノ具セ

ラレケルカ兜ヲ取テ逆ニ着玉へハ侍トモ
御兜逆ニ候ト申セハ臆シテヤ見ユラニト
思ハレケレハ主人^上渡ラセ玉へハ敵ノ方へ
向ハ、君ヲ後口ニナシ進ラセシカ恐レナル
間逆ニハ著ルソカニト宜へハ重盛何ト宜へ
トモ臆シテ見ヘタルナ打立テ者共トテ五百
余騎ニテカケ向ハル

佩添太刀

合戦条 印本ニ金子十郎家忠ハ中畧

同国住人足立右馬允遠元馳来レハ是御ラニ

侯へ足立殿太刀折テ候御帶漆侯ハ、御恩
ニ蒙リ候ハ、ト申ケレハ折節帶漆ナカリ
シカトモ御邊カ乞カ優シキニトテ先ヲ打
セタル郎等ノ太刀ヲ取テ金子ニソ與ヘケル
○太刀ニ振ハク時一フリヨハ帶漆ト云

上帶

右同 印本ニ足立カ郎等 中畧 既ニ腹ヲ

切ニト上帶ヲ押切レハ

緝直垂

黒系威鎧

黒漆太刀

黒母衣ノ矢

塗籠

藤弓 黒鞍

右同

印本云清盛宣ヒケルハ防

ク兵ニ耻アル侍カナケレハコソ是迄敵ハ迄
付ラマイテ、サラハ懸ニトテ緝ノ直垂
ニ黒系威ノ鎧着テ黒塗ノ太刀ヲ帶黒母衣
ノ矢負ヒ塗籠藤ノ弓持テ黒キ馬ニ黒鞍
置セテ乘玉ヒケリ上ヨリ下ニテオトナシ
ヤカニ出立レケル○愚管抄ニ義朝ハ六波
羅ノハタ板ノ際ニテカケ寄テ物駈シキナ
リケル時大將軍清盛ハヒ夕黒ニサウソキ
テ褐ノ直垂ニ黒革威ノ鎧ニ塗籠ノ箭

負テ黒キ馬ニ乗テ御所ノ中門ノ廊ニ引
寄テ大鍬形ノ堦取テ着テ緒ヲシメ打出
ケレハ歩武者ノ侍二三十人馬ニ副テ走廻
テ物サハカシク候。ハニト云テハタ、ト打
出ケル

大鍬形堦

右ニ見ヘタリ

七寸

右同

印本云鎌田馬ヨリ飛テ下リ七寸

ニ立テ申ケルハ

遠矢

右同

印本云雜人ノ手ニカ、リ遠矢ニ

射ラレテ討レ玉ハニコトコソ歎ノ上ノ悲ナレ

○鎌田カ義平ノ討死ヲ諫ノ詔

鞭差

義朝敗北之条

印本ニ

義朝顧玉ヒテアハレ源

氏ハ鞭差一テモ疎ナル者ハナキモノカナ

二十四差矢

打物

右同

印本云井澤四郎宣

景ハ二十四差タル矢ヲ以テ今朝ノ戦ニ敵十
八騎射テ落シ今ノ合戦ニ能敵四騎射殺
シタレハ箠ニニツソ残りケル其後打物成
テフルマヒケルカ痛手負テ引ニケリ

具足物具

右同

印本云西塔法師是ヲ聞イ

サヤ落人打留ニヤトテニ三百人

京師杉原半井三本

百人作三千束カカケニ待カケタリ中齋藤別當

申ケルハ中畧具足ヲ召レシ為ナラハ物ノ具

ヲハ進ラセ候ハニ通シテ給ハレト申ケレハ

大ノ中刺

長刀

右同

印本云

大衆

俄ニ

長刀ヲ

取直シ餘スニシトテ進カケケレハ真盛大

童ニテ大ノ中刺取テ番ヒ敵モ敵ニヨルソ

義朝ノ邸等ニ武藏ノ国ノ住人長井齋

藤別當直盛ソカシ留ント思ハ、寄レヤ手

柄ノ程見セ

上テ取テ送セハ大衆ノ中ニ引取ル少シモナシハトヤ思ヒケシ皆引テソカリケル中又横河法師神籠筆越ニ送ル引撥梅撥テ待懸タリ

鎧ツキ

右同

印本云

中宮大夫

進朝

長モ

弓

手ノ股ヲシタ、カニ射付ラレテ鎧ヲ踏

兼玉ヒケレハ義朝大夫ハ矢ニ中リツルナ常

ニ鎧ツキセヨ裏カ、スナト宣ヘハ

〇鎧ツ

ノ多クトヒ来ル時鎧ヲユリ上ケコツクヲ云ニ如此ニヨロヒヲウコカス故矢中リテモウラカク丁ナキナリ

笠驗

物具

鎧直垂

小具足

太刀刀

馬鞍

信賴 降參

之余印本云山法師ノ死シタルヲ葬シテ歸
ル者共ニソ行逢ケル法師原是ヲ見テ此
夜中ニ忍テ通ルハ落人ノ歸來ルニテソ有
テニ討留テ物具ハケト匂リケレハ式部大
輔取アヘス是ハ六波羅ヨリ落人ヲ追テ長
坂ヘ向テ候カ歎ハ早落延テ候間歸參
ルニ暗サハ暗ニ御方ノ勢ニ追オクレテ侍
ル之ト答ヘケレハ左モ有ニトヤ思ヒケニ
既ニ通スヘカリケルヲ法師一人笠驗ヲ見

ニトヤ思ヒケニ實シカラス野伏モナクテ
トテ松明振拳ケテ近付ケハ信賴先ニ打
レケルカアハヤト驚テ落ルトモナク馬ヨ
リ下リ物ノ具脱捨テ鎧直垂ヨリ小具足
太刀刀馬鞍ニテ取ヤカナヒテ命ハカリハ
助ケ玉ヘトテ手ヲ合セラレケレハ式部
大輔モハガレテケリ

島摺直垂

右同

印本云越後中將成親朝臣

ハ錦ノ島摺ノ直垂

京師杉原半井三本錦ノ字
アリ非ナルヘシ印本ニナシ

△物具ニテ終日軍三疲
給ケレハ馬時ヲ野路
ノ辺ヨリ午後レタマリ
中畧源内兵衛真弘云
者腹巻取テチカケ長
刀持テ走出ケルカ佐殿
ヲ見奉馬ノ口ニ取付落
人ヲ留申セト六波羅
リ仰セ下サレ候上テ既
ニ抱キオロシ奉ラントシ
ケレハ髪切ヲ以テ抜キ
ニシト、ウツレケレハ真弘
カ真向ニツミチワラレ
ノケニ倒レテ死ニケリ

之上ニ繩付テ六波羅ノ厩ノ前ニ引居ラレ

テオハシケリ

小手ノ覆

同卷
義朝落
青墓条

印本云兵衛佐頼朝心ハ

猛シトイヘトモ今年十三中畧續テ出ケ

ル男シレ者哉トテ馬ノ口ニ取付處ヲ同様

ニ切玉ハハ小手ノ覆ヨリ打テ打落サレ

テノキニケリ ○切タル太刀ハ髭切ノ由見エ
タリ下ニシルス

楯魚八龍

澤浮

産衣

右同
条

京師杉原半井

並云雪ハ次第ニ深クナル物ノ具シテハ叶

ハ子ハ左馬頭ノ楯魚同卷源太カ八龍大夫進

ノ沢浮兵衛佐ノ産衣ヲ始テ秘藏ノ鎧

トモ雪ノ中ニソ脱捨ケレ ○此時鎧トモ失
セタルカ

石切太刀

同卷
被誅条

印本云難波次郎経遠カ

御迎ニ参侯ト呼ハリケレハ御曹司袴ノ

ソハヲ高ク挟ミ石切ヲ抜クマ、ニ源義平爰

ニアリヨレヤ手柄ノ程ヲ見セントテ走り出

真先ニ進タル兵四五人斬伏テ ○石切前ニ
モ見ヘタリ

髭切太刀

前ニ記ニタル源氏勢汰ノ条ニ頼朝

髭切ヲ帶セシ事見ヘタリ
義朝落着 青墓之条 印本云
兵衛佐頼朝心ハ猛シト云ヘトモ今年十三
物ノ臭シテ終日ノ軍ニ疲レ玉ヒケレハ馬膺
ヲシテ野路ノ邊ヨリ打後レ玉ヘリ 中畧 森
山ノ宿ニ入玉ヘハ宿ノ者共云ケルハ今夜馬
ノ足音シケク聞ユルハ落人ニヤアルラニ
イサ留ントテ沙汰人數多出ケル中ニ
源内兵衛真弘ト云者腹巻取テ打懸ケ
長刀持テ走出ケルカ佐殿ヲ見奉リ馬ノ

口ニ取付落人ヲハ留申セト六波羅ヨリ仰レ
候トテ既ニ抱下シ奉ラントシケレハ髭切
ヲ以テ拔打ニシト、打レケレハ真弘力真
向ニツニ打割レテノケニ倒レテ死ニケリ
續テ出ル男シレ者哉トテ馬ノ口ニ取付
所ヲ同様ニ斬玉ヘハ篋手ノ覆ヨリ打
テ打落サレテノキニケリ 同卷 頼朝拳 印本ニ
云クカクテ日本國殘所ナク打從ヘ玉ヒ
テ建久元年十一月七日始テ京上セラレ

ケル中畧入浴アリシカハ即院參シ給ヒタ
ルニ法皇モ徃事思召出テ殊ニ哀ケニヨソ
見エサセオハシケレ髭切ト云太刀清盛並
カ許ニ有シヲ御守ノ爲トテ院ニ召置
レタリシヲ今度頼朝ニ賜ヒケリ青地ノ
錦ノ袋ニ入ラレタリ三度拜シテ賜ヒケル
トナシ此太刀ニ付テ數多人説アリ頼朝
関ケ原ニテ囚ハレ玉ヒシ時隨身セラレ
タリ云カハ清盛ノ子ニ渡テ院へ參リケリ

ト云々又或説ニハ今ノハ眞ノ髭切ニハ
非ス實ノ太刀ハ以前ヨリ青墓ノ大炊カ
詩ヨリ進ラセケルナリ其故ハ兵衛佐
大炊ニ預ケラレケルヲ頼朝囚人ト成玉ヒシ
時此太刀ヲ尋子ラレケルニ今ハ隱シテモ
何カセントヤ思ハレケシ有ノ終ニ申サ
レケリ即大炊カ許ニ尋ラレケルニ源氏
重代ヲ平家方へ渡サンスル事コソ悲シ
ケレ兵衛佐コソ斬レ玉フ共義朝ノ君達

柄鞘圓作

多ケレハヨモ跡ハ絶給ハシ先隱シテ見
ト思ヒケレハ泉水トテ同程ナル太刀有ケ
ルヲ拔替テ進ラスル髭切ハ柄鞘圓作也
定テ佐殿ニ見セ進ラセラルヘシ佐殿ハ^ワラハ
ト一心ニ成テ子細ナシト宣ハ、本ヨリノ
事ナリ若シ是ニ非スト申サレハ女ノ事
ニテ侯ヘハ取違侯ケリト申サニ苦シカ
ラシト思案シテ泉水ヲ上セケル也難
波次郎經家請取テ上リケルヲヤカテ頼

朝ニ見セ奉リテ是カト問レケルニアラヌ
太刀ト思ハレケレ共長者カ心ヲ推量シ
テソナル由ヲソ申サレケル清盛大ニ悦
テ秘藏セラレケルヲ院へ召サレケル也真
ノ髭切ハ先年大炊カ方ヨリ進ラセケル
ト云々頼朝被
生捕余京師杉原鎌倉半井並云
清盛右兵衛佐殿へ使者ヲ以テ御邊ノ髭
切ハ何クニ侯ソ是ヨリ以下文章違アレトモ其
趣意同意ナレハ以下コレヲ畧ス

泉水太刀 柄鞘圓作 青地錦太刀袋 右ニ見ハ

夕リ 柄鞘丸作トハ太平記ナトニ丸鞘太カト云ニ同金作ナリ柄鞘一圓ニ金ニテ包ミ

タルナリ柄鞘ノ形ヲ圓ニシタルニアラス

旗差 牛若奥州京師本云上野國松井田ト

云處ニケブノ亭ニ宿セラレタリケル主ノ

男ヲ見テ奴カ眼サシ類魂所存一ツハ有ラ

ニ彼等ヲ詔ヒテ平家ヲ滅サシ時旗サシ

ニセハヤト思ヒテ留ラント仕玉ヘハ此男申

スヤウ此冠者殿歩蹠ニテ迷アリクヘキ人

トモ見ヘス博奕打カ盗カ吾ヲ子ラヒテ

殺サントスル人カナリトテ追出シケリ云

云京師本云

牛若習兵法 牛若奥州京師本云牛若ハ鞍馬

寺東光坊ノ阿闍梨蓮忍カ弟子禪林坊阿闍

梨覺日カ弟子ニ成テ遮那王トソ申ケル

僧正カ谷トテ天狗化者ノ栖所ヘ夜十夜十

行テ兵法ヲ習フ○按スルニ是ハ天狗化者

ノスム所ノ人ノ通ハヌ所ヘ行テ修行シタル

ナリ人ニ隠シテ習熟シタル也天狗ヲ師ト

△何ニモシテ平家ヲ滅シ父ノ本望ヲ達セト思ハレケルコソオソロシケレ書ハ終日學テ又事トシ夜終夜武藝ヲ修メ日ロセテラレタリ

スルニ非ス

緝地錦直垂 紅下濃鎧 金作太刀 金覆輪鞍

頼朝拳 印本云九郎御曹司ハ秀衡カ許ニ

才ハシケルカ佐殿既ニ義兵ヲ拳玉フト聞

ヘシカハ打立玉フニ秀衡緝地ノ錦ノ直垂

ニ紅下濃ノ鎧 紅京師 金作ノ太刀ヲ添テ

奉ル馬ハ御用ニ隨テ召ルヘシトソ申ケル

○京師本云御馬ハイカ程ト申セハ黒馬ノ

八寸計ナルヲ始トシテ十二疋立タル中ヨリ

撰取テ金覆輪ノ鞍置テ乘云々

錦直垂 白旗 右同 京師本云義経百騎計

リ白旗サ、セテ参タリ何者ソ左右ナク

錦ノ直垂ヲ着白旗ヲサ、セタル事心得

子ト宜ヘハ源九郎義経ト名乗ル 何者ソ

朝ノ語 ナリ

白鞍 右同 印本云此老翁ニ引出物セヨト

仰アリシカハ白鞍置タル馬ニ疋色々ノ重

宝入タル長持ニ合ソ賜ヒケル 老翁ハ頼朝

ノ昔日誓宿セ

ラレニ近江国北郡淺井

ノ老翁頼朝被遠

弓取

流之条

京師杉原鎌倉半井本並

ニ云清盛ハ賢人ノ弓取トコソ聞ツルニ

老衰シタル母ノ申スコトヲ叶ヘス空ク

ナシヌルハ頼朝ノ命ヲ助ケテトテ清盛ノ繼母池禪尼ノ詞ナリ

...

...

...

...

矢湯筆紙校書 筆也

卯花威鏡 梨子打鳥帽子 白後講卷ヒヤ

ウト作ウ 子矢 大羽カ 人ノ

...

...

...

...

...

...

五人張 せりこり

赤地 赤地 赤地 赤地 赤地 赤地 赤地 赤地 赤地 赤地

子ニタウノ 無物 合作太刀 足指 廿二判切

生矢 合作 輪鞍 三人張 大将と 切か

人の 兼徳 寺 とも 止さ とも 止さ とも 止さ とも 止さ

り 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

し の うち む ち ち ち ち ち ち ち ち ち

う 打 打 打 打 打 打 打 打 打 打

せん 人 せん せん せん せん せん せん せん せん せん

つ 更 の 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世

い っ き っ き っ き っ き っ き っ き っ き っ き っ き

の ま ん 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲

ろ ろ ろ 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬

う ろ ろ ち ろ ろ ち ろ ろ ち ろ ろ ち ろ ろ ち ろ ろ ち ろ ろ ち ろ ろ

中判 十五 赤 三 城 五 人 法 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

押付 能 登 度 此 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

兼 主 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸

せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ

心をもみんまらふもりせつしむを
うすす一川なれとまりくし川を
まらふ二姉しおしりけぬしや川をうす
つらふもはたきんまこしし一陳
まむむもねも次信らむかひふまらしと尚
まちけぬりらるとと立が一財へ川をぬけふ
り

後指

耳指

矢倉

二海を川よをくす

まらふもね一ししはの^ひりまをせま

かしつふつさりまし七百余漆らむれ
松へ一むまらしりけあまら^二原氏^二百
金漆がむれしつらさちあまら^一一人
つらと矢ぬにまらく川をさし一矢川を
まらりし射し

古事談抜書

作者未詳

競馬装束

卷一王道后宮部堀川院御時

殿上人競馬ニハ左ハ打毬装束右ハ拍鉞装束

ヲ召テキセラレケリ不被用普通競馬装束

云云

一、キ

卷二臣節部中院入道有六ヶ能云

云第一和歌第二雙六第三未々木第四

舞曲第五笙第六職者也ト被自祢云々

○未々木ハ申々キヨ也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

腰刀卷四勇士部出羽守源齋頼ハ自若冠
 之昔至衰老之時以飼鷹爲業 中畧 白髮ニ
 帽子カツキテ 太布 タフノ直垂小袴ニ九寸斗ナ
 此腰刀ノツカニクス子糸卷タル脇ツホニ
 サシテ鷹ヲ居移之後ハ氣色モ事外ニ
 スクヨカク成テタカタ又キヨリ探上テ
 取手ナト探テ 太布 探上テ
 銀劔 同部寛治五年八月十四日義家朝
 臣許ニ右山鳩居於渡殿欄于上義家成

恐 中畧 仍以銀劔一腰駿馬一疋十五日曉

使助道惟貞等奉八幡 云々

下腹卷 同部平治合戦之時六波羅入道自

南山歸路之翌日掣侍從信親 信頼 送遣

父許之共侍四人皆布衣着下腹卷 難波

三郎経房 舘太郎貞安 平次郎馬允成 盛

信 伊藤五景綱

大津越ノ刀 同部大庄司云切換玉フナ刀ハ

イツレソト問ケレハ切手云鬼次郎大夫カ

大津越ツト云ケレハ心安ト云テ被切ケ

リ部類五人同切之大津越トハ人ヲ引

居テ切ニ左右ノ臂ノ上ヲ中骨不懸

切ヲ云ナリ○此条ニ云フ所ノ刀ハ打刀也

大劔 同部 同前 山林房覺遊ト云侍散樂ヲ

共ニ具シタリケルカ奈良法師ニテ帶大劔 オホタチ

武勇甚之者也

赤威鎧 同部 木曾冠者義仲推參法住

寺殿之時 中畧 赤ヲトシノ胃キテ葺毛馬

乗者只一騎聞此詞云安藤八馬允右宗

命ヲハ君ニ奉侯ヌトテ馬ノ鼻ヲ返テ馳向

敵方畢云云

弓退邪魘 同部 白河院御寐之後物ニオソ

ハレ御座ケル頃可然武具ヲ御枕上ニ可置

ト有沙汰テ義家朝臣ヲ被召ケレハマユ

ミ黒塗ナルヲ一張進タリケルヲ被立御枕

上之後オソハレサセ御座サリケレハ御

威有テ此弓ハ十二年合戦之時ヤ持タリ

武具

ニト有御尋之處不覺悟之由申ケレハ上
皇頻有御感ケリ。○此事宇治拾遺
ニモ見ヘタリ

轡ノ水付 同部伊豫入道頼義於華堂修逆

修之間或日義家聽聞之中間郎等一人出
来義家カ耳ニサ、ヤク事ス聞之有忿怒之
色歸向宿所了爰入道呼郎等一人云左兵卫
尉有怒氣歸畢何事ノアルソ見テ可飯来
云、使歸来云只今御キセナカヲ被取出テ
ツラヌキタテ一ツリ御馬ニ被置鞍之間ニ

キセナカ
ツラヌキ

云、頼義サレハコソ怒ヌレハ眉髪上サ、ニア
カル也トテ又以使者云何事ニトモ修善
残今一兩日也結願之後イカナル事モセラ
ルヘシトテ門ニ止シヤウヲ指廻テ築垣ヲ越テ可
歸来之由示テ遣シケリ使如云カ指廻テ
鎰ヲ取テ歸畢義家聞此由テ云オシノ
鞍轡ノミツ、キニテアケヨト云テ即アケ
サセテ打出畢事ノ根元美乃国ニ有郎
等頼国十男美乃七郎為國房光国笠トカメノ間弓ヲ被切云

仍以飛脚告其由之間義家聞之不拍父之
制止所出也 ○国房館ニ寄スルナリ

キセナカ ツラヌキ ヲシノ鞍 右ニ見タリ

赤柄刀 一フタキ 卷二臣節部常ハ鳥括ノ

水子無紋ノ袴紅ノ衣ヲ着テ赤ツカノ刀

ノ一フタキニ貝摺タル差テ家中ニハ居タ

リケル○是肥前守景家カ躰ヲ云也一フタ

キトハ目貫ヲ云ナリ赤柄ハ赤木ノ柄ナル

ハシ

蒔繪弓 同部伊通参議右兵衛督中宮權大

夫 中畧 年来所被借置蒔繪弓返遣中院右

府トテ ○大治五年十月ノ一此ハトセ

テ手ナラシタリシ持弓返ルヲミテソ

子ハナカレケル返シ何カソレオモヒス

ツヘキ持弓又引カヘス折モアリケリ

壺胡籙浅沓 平胡籙靴沓 卷五 神社佛放

生會被准行幸之儀式事ハ延久二年始也

上卿大納言隆國云々初年許ハ壺胡籙浅

沓也自第^二年被改平胡籙靴沓云々

平礼烏帽子 卷一 王道后 宮之部 於烏羽院御前有

酒宴元日宰相中将信通 寛愛 人也 為上戸而一

兩度之後固辞尚被責仰之時申云冠ノ額

ノツメ候之間不可叶云々氣色実不使上

皇忽令着御之烏帽子ヲ取テ是ヲセヨト

テ給ケレハ左府可為艶堀川御前ニ候ニ

申ニ傳フ給テ自カ烏帽子ヲ取テ出テ小

木鳥着仔御烏帽子上^俊シ房カヲコソ直

ニハイカ、トテ平礼ノ烏帽子ヲ給云々

坂上宝劔 同部 延喜野行幸之時被入腰裏之御

劔ノ石付落失云々 中畧 知足院殿 公忠實 ワカク御坐

ノ時不堪不審以或者ヌカセテ御覽シケレハ

頗峯ノ方ニヨリテ金ニテ坂上寶劔ト云銘

アリケリ

石付

ミ子

兼久記抜書

作者未詳其頃ノ人記之

唐綾威御着長

卷上大膳大夫廣元加様ノ時ハ

御装束ノ下ニアレタラニクルニクモ侯

マシトテ唐綾威ノ御キセナカ一領進ラセ

タリケルヲ文章博士何条サル事有ヘシ

トテ留奉ル○右實朝公右大臣并賀トシテ
建保七年正月廿七日ツルカ岡八

ニシテ宮ヘ参玉フ
時ノ事也

細太刀

同卷

同条

若宮ヘ参リツカセ給テ

車ヨリオリサセ玉ヒケルカ細太刀ノ柄

ノ車ノ手カタニ入タリケルヲ知セ給テ打

ヲテセ給ヒタ人浅ニシト見奉ル程ニ仲章

苦シク候ハシトテ木ヲ結ヒソヘテソ進セ

ケル

調度懸

同卷

同条

調度懸ニハ加藤大夫判官

光定隠岐三郎左衛門尉元之等也

長緋直垂小袴

萌黄匂小腹卷

廿五夫漆羽重

藤弓

卷上治部次郎アノ壽王ニ物ノ具

サセヨト云ケレハヤカテ子ヤフケニノ直垂

小袴ニ萌黄白ノ小腹卷十五 物語二十五サニタルソメ

羽ノ矢シケ藤ノ弓ヲソモタセタル〇 毒王ハ伊賀

判官胤義
カ子ナリ

物具 右ニ見タリ

滋目結直垂 小袴鎧 同奈伊賀判官ハニケヲ

ニ化ノ直垂小袴鎧一領前ニツキ弓ハリ矢

ニ腰ナラヘタテ、今ヤト待カケタリ

黒革威鎧 卷上一番ニ黒革威ノ鎧着テ葦

毛ナル馬ニ乗タル武者一騎平九郎判官ノ

手ノ者信濃國ノ住人志賀五郎トテ真先

カケテソヨセタリケル

鎧ノ引合セ 卷上ヨツ引テ放矢ニ時連鎧カ引

合ノフカニ射サセテノキニケリ

弓ノ鳥打 卷上伊賀判官能引テ放シケ

ルニ平九郎判官カ持タリケル弓ノ鳥

打所ヲハタト射削テ弓子ノ方ニ並ニテ

扣タル播磨國住人原田右馬允カ頸ノ骨ニ

中リテ馬ヨリ落ヲ

鎧ノ弦走ノ三ノ板

卷上能引テ放シケレハ

戎^衣ノツルハシリノ三ノ板一テ射ハシラカシ

タル

腹卷ノ高紐

赤木柄刀

卷上判官カ嫡子壽

王ヲ招テ時コソ能成リタレ自害セヨ云ツ

ル言ニ、テカマヘテ能振舞ヘ壽王ト云

ケレハ自害ハ如何様ニ仕候ヤラ^{トハハヤ}只腹ヲ

切レトソノタマヒケレハ則腹卷ノ高ヒ

モ切テ推ノケ直垂ノ紐トキクツロケテ

赤木ノ柄ノ刀指タリケルヲ拔テ柄ヲ取直シキ

ツ^ラキツ^ラトシケルカ流石ヲサナキ故ニヤ無左

右不切得

旗ノ手

卷上一町共旗ノ手靡ヌ所ハ候ハスヒ

ニト續テ候カ

矢タハ子

卷上筑井^{四郎太郎}トアル小家ニ走入テ四方

ノ垣切テ押立六人指籠テ矢タハ子トイテ推

ク名ケ指^ツ攻サシツノ是ヲ射ル

悪日軍立

卷上武田五郎^{信光}國ヲ立家ヲ出ル

日十死一生ト云悪日ノ跡ニ留ル妻子ヲ始
トシテ有ト有ル物今日計リハ留ラセ給ヒ
テ明日立セ玉トシカト申シテ共武田五郎
何奈サル事ノ有ヘキソタトヘハ十死一生ト
ハ多ク出テ少飯ルトコサシナレ軍ニ出ルヨ
リシテ再ヒ歸ヘシトハ不覺是ユソ吉日ナレ
トテヤカテ打立ケル

菱乱株 逆茂木 黒皮威鎧 黒羽矢 塗籠藤

弓 卷上武田小五郎カ郎等武藤新五郎ト

云者アリ童名荒武者トメ申ケル勝レタル
水練ノ達者也是ヲ呼テ大炊ノ渡瀬踏ミ
テ敵ノ右様能見ヨトテ指遣ス新五郎瀬フ
ミシヲホセテ歸リ来テ瀬踏コソ仕テ候
ヘ但シ河ノ西方岸高シテ輒ク馬ヲアツ
カヒ難シ向ノ岸渡瀬七八段カ程菱ヲ種
流シ河中ニ乱株打ツナハハ逆茂木引懸
四五段カ程ヒシ板捨テ流シヌ綱キリ逆茂
木切テ馬ノアケ所ニハシルシヲ立テソレヲ

乎テ渡サセ給ヘトノ申ケル武田五郎先サ
一ニ存知シタリケレハ河ノハタヘ進ム武田
子ノ者信濃国ノ住人子野五郎河上左近
二人打入テ渡シケルカ向ノ岸ニ黒皮威ノ
鎧ニ月毛ナル馬ニ乗テクワツバノ矢負テ
塗籠藤ノ弓持タリケルカ河ノハタノ下ノ
夕ニニ打下テ
切舟 卷上 同余 六郎カ弓手ノ切舟ノ後ロノ
餘ヲ籠深ニ射サセテ馬倒ニコロヒケレハ太

刀ヲ拔テ逆茂木ノ上ヘ飛タテ

黒皮威ノ鎧 蒜ノ母衣 卷上 筑後六郎左衛門

尉黒皮威ノ鎧ニ蒜ノ母衣掛テ白月毛ナル

馬ニ乗テ落行ケル

御所焼太刀 卷上 六郎左衛門 筑後六郎左衛門也 取テ

返ス御所焼ト云フ聞ユル太刀ヲ帶タリケリ

御所焼トハ次家正ニ作ラセテ君御手ツカラ

焼セ給ヒケリ公卿殿上人北面西面ノ輩御

氣色好程ノ者ハ皆給テ帶ケリ筑後六

郎左門尉都ヲ出ケル時今度ハケトテ給
ヒケリ只今其太刀ヲソ帯タリケル武田五
郎押双タル所ヲ拔打ニ馬ノ首ヲ綱添テ
フツト切テソ落シタル○君トハ後鳥羽院
ヲ云次家ハ後鳥羽院禁中ニ召置レタル番
鍛冶十三人ノ中ノ一人也秋八月ノ當番鍛
冶之備中国青江ノ住權介ト号ス元曆ノ北
ノ人ナリ
甲ノ緒 卷上伊佐三郎山田次郎カ甲ノ甲ヲ
ツカニテ引タリケレトモ大カナリケレハ甲

ノ緒ヲフツト引切テ山田ハ延ヌ一
石弓火牛 卷上市降浄土ト云所ニ逆茂木
ヲ引テ宮崎左衛門堅メタリ上ノ山ニハ石
弓張立テ敵ヨセハ弛シカケント用意ニタ
リ人々如何カスヘキトテ各區ノ議ヲ申
ケル所ニ式部丞朝ノ謀ニ濱ニイクラモ有
ケル斗ヲトラヘ角先ニ續松ヲ結付テ七
八十匹追ツ、ケタリ牛續松ニ恐レテ走り
突トヨリケルヲ上ノ山ヨリ是ヲ見テヤハ

ヤ敵ノ寄ルハトテ石弓ノ有ル限ハツシ懸
タレハ多クノ兵討レテ死ス

搔拵 卷下橋中ニ間引落シテ搔拵搔キ山田

ノ次郎ヲ始トシテ山法師大勢陣ヲ取ル○

同条搔拵ノ際ニ被切伏

大太刀 **小太刀** 同条山法師ハカ子夕子ノ達者

ナリ其上大太刀長刀ヲ持テ重クウテケレ

ハ武士ハ心コソ剛ナレトモ小太刀ニテアイシ

ラヒ戦フ程ニ九人カ中六人ハ搔拵ノ際ニ被

切伏

鎧打羽フキ 卷下足立三郎鎧ヨシ橋折ニ鎧

打羽フキテ居タリケル○熊谷次郎兵衛申

ケルハ一時ニ事ヲキルハキニモナシ各休給ヘ

トテ河端近ク打卧様ニ鎧打羽フキテ皆伏

タリ

甲ノ鉢 **鉢付ノ板** **白篋ニ山鳥ノ羽** **矢ニルシ** **卷下**

宇都宮四郎カ卧タリケル甲ノ鉢ヲ射ケ

ツ、テ縫様ニ鉢付ノ板ニシタ、カニ射立

タリ白篋ニ山鳥ノ羽ニテハキタリケルカ真
ニ大ナリケル宇都宮四郎甲ノ鉢ヲ被射
テ不安思ヒ起揚テ見レハ信濃国住人福
地十郎俊政ト矢ミルシアリ十三束三伏^{ニ物}ッ
有ケル宇都宮四郎頼成ト矢ミルシ一タル是
モ十三束ニ伏有ケルヲ以テ川端ニ立テ能
引テ^丙放ツ川ヲスチカイ様ニ三町余ヲ
射渡テ山田次郎^{いんげん}カ川端ニ唐笠サセテ
軍ノ下知シテ居タリケルニ危^{笠ノ袖ニツアケカカリニ物}程ニ又射懸

タル

赤系威鎧

中差矢

卷下其中ニ赤系威ノ鎧着

タル男殊ニ進ケルヲ宇都宮四郎例ノ中差
取テツカヒ支ヘテ射ケレハ頸ノ骨ヲ被射
立モタマラス一ロヒニケリ

黒革威鎧

二ノ矢

鎧ノ引合

卷下次ニ黒革

威ノ鎧着タル法師武者少モヒルマス懸ル
所ヲ二ノ矢ヲ^ツカヒテ、射ケルニ引合篋深
ニ射ラレテ河中へ倒レ入ニケリ

上矢ノ鏑

卷下何クヨリ来ルトモ不覚上山ヨリ大妻

鹿一ツ落来レリ敵味方アレヤアレヤト騷

ク所ニ甲斐國住人平井五郎高行カ陣ノ

前ヲ走リ通ル高行元来鹿ノ上手ニ聞ヘ

テハアリ引立タル馬ナレハヒタト乗込ニ

弓手ニ相付テ上矢ノ鏑ヲ打番ヒシハ引

テハシラカシ三段討ニツノヨセラ思白毛ノ

木ヲ鏑ハ此方へ抜ヨト丙ト射ル鹿矢ノ下

ニテハ口ヒケル由々敷見ヘシ

脱甲引弓

卷下桓武天皇ヨリ十三代ノ苗裔

相模国住人三浦駿河次郎恭村生年十八

歳ト名乗テ甲ヲ脱テナケノケ指攻引

攻ヲ射テリ乳母子ノ小川太郎甲ヲ取テ

キセケレハ脱テハ捨脱テハ捨二度一テメシ

タリケル是ハ矢強ク射ニ爲ナリ

旗画佛像

笠符

卷下向ノ岸ニ奈良法師熊野

法師數子騎向タル其中ニ不動コシカラセイ

夕カ童子ヲ笠符ニ著タル旗共打立テ右

ケルカ河風ニ被吹テ靡ケルハ実ニオノロシ
クソ見タリケル○是ニ笠箒ト云フハ旗ノ
ニルニニ画ヲ云ナリ此条ノ笠箒ハ夕
ニルニト云事之

尻モナキ矢 卷上波多野五郎尻モナキ矢ニ

テ其レモ真甲ノ餘ヲ射サセテ引退ク○卷
下波多野五郎信政引タル橋ノ際逆押寄タリ
是ハ公ル六月抗瀬川ノ合戦ニ尻モナキ矢ニテ
額ヲ被^{本ノ下}タリケルカ^{本ノ下}ニカ^{本ノ下}ハカリハレタリ○尻モ

ナキ矢ハ尻ナキ矢ナリ

小具足 白母衣 卷下三番ニ平三郎兵衛盛綱鎧

ハ脱テ小具足ニ太刀ハカリ帯テ白母衣ヲ懸橋
ノ際逆進テ

白齒立ノ馬 卷下佐々木 四序左衛門 尉信綱ナリカ馬ハ權大

夫殿ヨリ給タリケル甲斐國ノ白齒立黒栗
毛ナル^馬ノ下尾白カリケリ八寸ノ馬其名ヲ

御局トソ申ケル○白齒ハ牧ノ名ナリ立ハ

生也ソタ子也

物語 橋ノ家
芝田カ馬ハ鹿七ナル馬ノ太シクマシキカ三波ト申テコレモ
キコエル名馬ナレトモ

腰刀 卷下佐々木向ノ中島ニ打上タレハ子息

左衛門太郎重綱トテ十五ニナリケルカタフサギニ

白キ帷ヲ著腰刀ハカリ指シ太刀ヲ頭ニカケ

父カ馬ノ鞆ノ総ニ取付テ来タリ

水付 卷下御命ヲ失セ給テハ何ノ高名カ可

候トテ水付ニ取付ケルニ

小笠懸 卷下武藏太郎時氏是ヲ見テアナムサシヤ

掣尾三郎 景高打スナトテ少スキノアリケル所ナレ

ハ馬ヲハタト出シテ追物射ニ射タハハ物語小笠懸射様ニ落下リテ

敵カ鎧ノ草スリノ餘白ヲ見ヘケル所ヲ支テ

射玉フ

笠符 卷下駿河次郎先様ニ渡タル者共サソ

思ラニ旗差向ニ渡リタリ三浦ノ笠符ヲ弓

ノハスニ付テ指拳タリ先ニ渡ル輩是ヲ見

テハヤ次郎殿渡サセ給ケルヲトテ跳拳リ

テソ悦ヒケル

赤地錦直番 **萌黄勾鎧** **裾金物** **白星冑** **切生**

矢 **紅母衣** 卷下京方ヨリ赤地ノ錦ノ直番ニ

萌黄ニホヒノ鎧スソ金物打タルニ白星ノ甲
キリフノ矢負テ紅ノ母衣懸白葦毛ナル馬
ニ乗タル上臈君トノ人ト見ル所ニ是ハ右衛
門佐朝俊ナリ

火威鎧

長覆輪太刀

卷下又京方ヨリ火威ノ鎧

白月毛ナル馬ニ長覆輪ノ太刀帶テ呼ヒテ
出来タリ打エミタルヲ見レハカ子黒也

衆替

卷下平九郎判官散々ニ戦程ニ郎等衆

替或落或被討○衆替ハ主ノ衆替ノ馬ヲア

ツカリ衆タル侍ナリ盛衰記ニモ見ヘタリ

腰刀

卷下腰ノ刀ヲ拔テ搔切々々四ノ首ヲ

取リテ参リ

流鏑馬

卷上今ハ角ト被思召テ鳥羽ノ城南

寺ノヤフサメソロヘト披露シテ逆國ノ兵共

ヲ被召テリ○同卷ニ賀陽院殿メサル、程ニ

参リ侯城南寺ノヤフサソロヘト聞ヘシカ

其儀ナクテ寺ノ大衆シツメラルヘシトモ聞

ユイカサマニモ世ノ中ヲタシカルヘシ共覺エ

又候

三

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

明德記抜書

作者未詳其時之人記之

螺

卷上御所各御前へ被召テ軍ノ御評

定アリケルニ

中畧

其時暫ク會^{アヒシラヒ}状相圖ノ螺ヲ

吹立テ上下ノ大勢揉合セ一戦ノ中ニ天下ノ

安否ヲ定ハヤト思フ

甲ノ緒

卷上馬ノ腹帶ヲカタメ甲ノ緒ヲ三

又寄来ル敵ヲ待カケタリ

御着長

長給直垂

篠作太刀

混甲

卷上御所

ハ二十六日ノ辰刻ニ一色刑部大輔ノ亭中御

門堀川ノ宿所へ出御ナル家僕御退治ノ御出ナレバトテ御着長ヲモ不被召御烏帽子ニ長縮ノ御直垂ヲメサレ蓑作ト云御太刀ヲ帶ヒ給ヒケリ御馬廻モ皆折烏帽子素袍袴也其外諸軍勢ハ皆混甲ニテ一備々々打テ出テ内野ニ陣ヲメ取タリケルニ矢合ノ鏑ノ鏑ヲモ不射出兩陣互ニニラミアヒテメ扣ヘ

及此言外書 非香未精具執之入時之

錦御旗 卷上同十二月廿九日ノ暮程ニ山名

陸奥守小林ヲ呼テ宣ヒケルハ我此間當社ヲ八幡崇申ス賀茂ノ社ヲ造營仕事只敬神ノ深キ而已ニ非ス情事ノ心ヲ案スルニ新田左中將義貞ハ先朝ノ綸命ヲ奉テ征夷將軍職ニ居テ天下ノ政務ヲ携リキ我モ其氏族トシテ國務ヲ望ヘキ奈其詔無キニシモアラズ先年ノ次アリシ時南朝ヨリ錦ノ御旗ヲ申シ給テ在テ今此度任先例戰場ニ差揚テ

ハヤト思フナリ

黒系威腹卷 赤地ノ錦ノ母衣 卷上義弘カ其日ノ

装束ニハ黒系威ノ腹卷ニ三尺五寸ノ太刀ヲハ

キアカ子ノ錦ノ母衣ヲカケ三尺一寸ニ作ケル

荒身ノ長刀ヲ水軍ニ廻シ待懸タリ

三尺一寸ノ荒身ノ長刀 右ニ見タリ

大旗小旗 卷上陳々ノ勢打立テ大旗小旗ニラ

ナイテ二三万騎モ有ラシ

同丸ノ腹當 帽子甲 卷上大内介カ兵ハ神祇

官ノ森ヲ背ニ當テ射手ノ兵ハ同丸腹當

帽子甲ニテ楯ヨリ左右ヘ流テ雨ノ降カ如ク

射タリケル

因幡脛楯 卷上小林長刀ヲ切放サシト少シ振

アヲノキケル處ヲ長刀ヲ取直テ脇當ノ端

レヲ横様ニナイタリケレハ因幡脛楯ノサ子

トモニカタ股カケス切テ落シケル

火威鎧 卷中火威ノ鎧着テ葦毛ナル馬ニ

乗タル武者挂川ハコナタヘコナタヘト呼ハツ

テ夜ノ程ハ真前ニ打ツルカ夜ノ明ルトヒトシ
ク行方シラス成リタリ

相符 卷中此一族皆々相符ヲメ土屋黨ノ

者共何十人討死ニタリト人ニモ被知高名ヲ

子孫ニ傳ヘニ事何ノ疑有ヘシヤ中畧各此

義可然トテ土屋黨五十三人皆一ヤウニ左

ニ指懸ユカケヲサシテ引手ノイ長高指ヲ紅ノ糸ニテユフ

知リタルユカケニ被知高名ヲ

小袖ト云鎧フスヘ革威中ニ通り黒革ニテ威ニ

タル腹巻 同毛五枚胃 胃ノ緒 篠作太刀ニツ

銘太刀 藥研徹脇指 金覆輪鞍 厚総鞆 卷中

御所ノ其日ノ御装束ニハ熊ト小袖ヲハ不

被召フスヘ皮ノ御腹巻ノ中ニ通り黒皮ニ

テ威ニタルヲソ被召タリケル同毛ノ五枚甲

ノ緒ヲシメノ累代ノ御重宝ト聞ヘシ篠作ト

云御帶刀ニニツ銘ト云御脇指ヲサ、セ玉ヒ

テ御秘藏ノ大河原毛五尺ノ馬ト聞ヘシ金

覆輪ノ御鞍置テ厚総鞆懸テソ被召タル

抑今度御小袖ヲ不被召ニテ黒皮ノ御腹卷
ヲ被召ケル事ヲ如何ト申スニ御小袖ハ朝家
ノ怨敵御退治ノ時ノサル、佳例ノ御着背
也今度ハ御家僕ノ惡逆ヲ誠ノ御沙汰ノ御
退治ナレハ敵ニアハス御着背ナル上軍勢
ニ御紛レ有テ若氏清満幸等ヲ御覽ニ付
サセ給ハ、人手ニモ懸ス御自切落サニ物
ヲト思召ケル故ト又聞ヘシ

物具小具足

卷中思々ノ馬物ノ具鞍小具足

ニ至ルニテ金銀ヲ色ヘテ出立テ
色々ノ母衣 卷中土屋黨是ヲ見テ人ニセモセ
久一族若黨百五十騎色々ノ母衣ヲカケツレ
テ四目結ノ旗ノ下ハ轡ヲ双ヘテ切テ入

鳩ノ瑞

卷中御馬廻ノ三千餘騎時ヲ囓ト作り

懸テ争ヒ進ケル處一ツノ不思儀アリ御旗西
へ進ムト等ク北野ノ森ノ方ヨリ山鳩一群飛
来テ御旗ノ上ニ返翻ニテリ其中ニ尾ノ長サ
二尺計ナル靈鳩一双交テ暫ク飛廻リケルカ

播磨守ノ陣ノ上ヲ押ノ方ヘ飛行ケシハ是
ヲ見ケル人毎ニスハヤ八幡大菩薩北野天満
天神ノ御影向ノ奇瑞ヲ顯シテ凶徒ヲ拂セ
玉フハハ信心肝ニ銘シツ、皆憑敷ノ思ハシ
ケル此鳩ノ飛去ト同ク播磨守打負テ梅
津ヲ差テ引テ行ク

旗 卷上播磨守山名ノ兵一十余キ峯ノ堂ニ
陣ヲ取三ツ引兩ノ旗ニ流挂河ノ川嵐松ノ
尾山ノ山風ニ吹靡セテ○卷中右近ノ馬場

旗ノ蟬
本ニ竹
ルノ葉付

ヲ南ヘ向テ四ツ目結ノ大旗ヲ龍蛇ノ如クテ
又カニテ佐々木治部少輔○卷中赤松上総介
義則一千三百餘騎ニ條猪熊ニ松ノ文字書タ
ル大旗ヲ真先ニ進メテ○卷中三引兩ノ旗ノ
蟬本ヨリ竹ノ葉付タルハ宮内少輔ト覺ルソ山名特昭
山名宮内少輔ナリ○卷中山名中務少輔赤松勢ノ真中
ハ曳声ヲアケテ切入テ三引兩ノ大旗ト松
ノ文字書タル赤旗ト合ツ別レツ廻リ合○
卷中上総介ノ旗差モ大勢ノ中ニ懸入テ旗

旗差

ツハ竿ニ卷添テ散々ニ切テ廻リ

五尺三寸ノ太刀 五尺二寸ノ太刀 卷中柿屋ハ

正^彈五尺三寸ノ太刀滑良ハ^{兵庫}頭 五尺二寸ノ長

刀ヲ以テ敵ハキヲ手ノ下ニ切テソ落シ

タル

長具足 臆病金 卷中筑紫九箇國ニ名ヲ得

タル滑良兵庫ト覺ヌルヲ打アースナ兵トモ

長具足ニテ差合セ太刀持後へ立廻ルヲ切レト

申ケレハ五人前ヨリスキモモナクヤリ長刀ヲ

鏡長刀

支ツ、太刀持後へ走寄テ臆病金ノハツ

ヲ兩足カケテソ切タリケル

切双ノ劔 卷中滑良ハ長刀ヲ投捨テ三尺

一寸有ケル切ハノ劔ヲ抜ク終ニ返ツク敵

ヲ打拂ヒ

赤地鈍子包金同 白糸鎧妻取 二両著重 同毛

五枚甲 銀ノクハ形泥丸 黒鞘太刀 太刀二振

帶 金襴大笠符 白覆輪ノ鞍 金鐐ノ馬鎧

二引兩大旗 卷中一色左京大夫ノ裝束ニハ

赤地ノ鈍子ニテツ、カ子トッ金同ニ白糸ノ
鎧ノツ、取タルヲ二両著重子給テ同毛ノ
五枚甲ニ五尺二寸ノ銀ノ鍬形打テ猪頭
ニ著テ四尺三寸ト聞ヘシ泥丸太刀ノ三尺
名ナリ
八寸ノ黒鞘ノ太刀ニ振帶テ白地ノ金
襪ノ大笠笄ヲ内野ノ風ニ吹ナヒカセテ粟毛
ナル馬ノ八寸ニハツレタルニ白フク輪ノ鞍
置テアチナカリ金録ノ馬鎧カケテソ乗タリケル
サシモ廣キ内野ノ末ニ條ノ大路ニモ餘

ル計ニ見タリケリニ引兩ノ大旗ユラメキ
進ム

幕 卷中今ハ奥州山名陸奥守角ト思ハレケシ

ハ爰ハ遁シヌ所ナリ心閑ニ腹切ヘシ帷幕ヲ
引ケト宣ヒケレハ押小路大宮ニ小竹ノ一村
右ル所ニ三ツ引兩ノ幕ヲソ引タリケレ
共

刀 卷中太刀ヲハ馬ノ上ヨリ投捨テ刀ヲ抜キ
奥州ノ死骸ノ上ヘ飛下リテ小次郎モ參リ

タリトテ奥州ノ空キ死骸ニ取付テ腹切
ニトシタ一ヒケルヲ○カトハ腰刀之サヤマ
キヲ云也 ○小次郎ハ山名小次郎ナリ
奥州ノ甥ニテ又猶子ナリ

頬當 卷中河崎帯刀ト云者小次郎山カ

上ニ落重リ甲才取テ投ノケテ頬當ノ
外レヨリニカサシテ髪才取テ引仰ノケ
見タレハ二八討ナル若武者世ニ美シク
ハナヤカナリ

奥鱗 **虎韜** ニヒキリヤウノ旗五ナカレ

ウチタテ奥鱗ニ進ミ虎韜ニ開テ一足
モ退クナタ、皆切死ソト兵ヲ進メテ
カコミタリ

馬ノ名所 馬ノ胸掛ムナカイ二重皮フタヒ四肢シツ平頭鎧ヒラクシノ

ハナ切テハ切スヘ難テハナキ伏セ落ル武
者ヲハ刺殺シ戦フ者ハ小具足モ鎧モカ
ケスタマラス切伏テ

小具足 右ニ見ヘタリ

堅メサセテ

鑑

卷上甲斐庄ハ諸家ニ名ヲ得タル勇夫

ナレハ我ニ不劣兵二百討リ引卒シ鑑ヲ小

膝ニノセテ西ヲ睨テ床木ニ居ス

金作小太刀

卷上爰ニ誰トハ不知寄子ノ中

ヨリ年ノ程十二三計ナル小兒ウス假粧

ニカ子クロナルカ髪カラワニアケテイト

花ヤカナル臭足ニ袴ノソハオ高クアケ

金作ノ小太刀拔テ真向ニサシカサシ○小太
カトハ

夕、小サキ太刀
ヲ云フナリ

矢負ノ夫 木鉾

卷上神保宗右衛門尉安

富民部カ許ヘ使者ヲ遣シテ云様ハ今日

ノ未明ヨリ今迄ノ合戦ニ闕屈メコソ侯ヘ

御合カノ段ハ御方ニ限ラス諸家各可停

止之由上意ニテ御座侯上ハ是非ナキ次第

ニ侯シカリト云ヒタルヲ一荷贈給侯ヘ政

長ニ献シ最後ノ宴仕リ同心ニ腹ヲ切フ

スルニテ侯又今朝箭負ノ夫河原ヨリ洛

矢テ着陣セス候間木鉾ヲ少云合力候へ
トソ申ケル雖然曾テ耳ニモ不聞入

笠懸馬場 卷下又中筋花ノ坊ノ透本ノミハ細

川右馬頭ニ土佐衆ヲ付テ寺ノ内ヨリ典厩
ノ笠懸ノ馬庭場ヲ経テ相国寺ノ延壽堂
ヲ南へ打出テ花ノ坊ト集好院ヲ燒

落セト也

火箭 卷下大田垣力一族衆ニ田公同義作

守同能登守等ノ三番衆是ヲ雖相拘云

又ル春ヨリ諸勢ヲ下テ火箭ヲ消シ不得

○又云又大手ノ口モ大田垣力構ヲハ究竟

ノ手番トモ火矢ヲ以悉ク雖燒落芝ノ藥

師へ引退テ相支ケレハ

犬馬場 卷下又東陣モ上ハ犬馬庭場西藏口下ハ

小川一條ニテ足ヲ下スニ所ナク

三枚重ノ鎧甲 七尺三寸ノ太刀ハ、キ 卷下

熊野侍ノ其中ニ野老源三ト云者奥ニ一山

ニテ隱ナキ大カナリケル基綱武田安ト組テ

名譽ニセシトテ持タル打物カラリ捨テ
 大手ヲハタケテ懸リケリ基綱是ヲ岐ト
 見テ悪キヤツカ振ニヒ哉捨太刀一ツ受テ
 見ヨト云於ニ振アケテ丁ト打ツニ三枚重ノ
 鐵鐵鎧鐵甲磐石ヲ打カ如ク手對シテ七尺三寸ノ
 御所御所太刀ハハ御所キヨリ打折テ柄ハカリコソ残リケ
 レモ書モテテ八丈七尺ノ鐵鎧鐵鎧鐵ニテ
 思々ノ具足 混冒 卷下思々ノ具足ニ混冒キ
 タル究竟ノ勇夫

フスヘ革ノ腹卷 同毛五枚甲 高角大太刀卷下

フスヘ革ノ腹卷ニ同毛ノ五枚甲ニ高角打
 テ居頭ニ着七尺三寸ノ棟ニ錢ヲ伏ル程ノ
 大太刀ヲワキニ穿込テ總門へ出○是ハ
 一宮正梅カ躰ヲ云也

黒革威ノ腹卷ニ廣袖付 小泉甲 甲ノ緒

卷下政長 畠山ノ其日ノ出立ハ黒革威ノ腹
 卷ニヒロ袖ツケテ小泉甲ノ緒ヲシメ馬ヨリ
 下立テ長刀ヲツハニツキ南ヲ岐ト見玉フ

鑓ヲ入

横鑓二番鑓

卷下楯ヲ真向ニ推筭敵

ノ虎口へ突カケテ三百帖ノ楯ヲ捨テ鑓ヲ
入レハ東ヨリ東條カ衆二千計横鑓ニカ
ケルカ東條カ先陣ニ進テ鑓ヲ入ルヲ計セ
ニト○同卷佛殿ニ陣取衆ノ鑓前ニトロニ見
ヘタルハ一定潰ナント覺エル也爰ニ二番鑓
ヲ造レト云モハテサルニ類ニカ、レハ敗軍
トヨセ合テ鑓ヲ叙カニ様ソナキ○此二
番鑓ハ二度鑓ヲ列ニテ突カ、ル事ヲ云

ナリ

蟬小旗

卷下彼佛殿ノ北ニ打出タル敵ノ

中ニ蟬小旗指ツレタル勢一二十見タルハ正

シク尾張守カ手ト見エルナリ

具足

卷下卒ヤ人々諸卒ヲ相催ニ先公方

ノ警固ヲ致セト相觸ケレハ半時ノ間ニ究
竟ノ具足武者五六千コソ馳寄ケレ○同
卷思々ノ具足ニ混冒キタル究竟ノ勇夫
八百計

物具

卷下御使被歸ケレハ物具セヨヤ

ト若者共於殿中討死ハ日本國ノ諸侍

ノ棧敷ノ前ノ振舞ナリ



物具

卷下御使被歸ケレハ物具セヨヤ

ト若者共於殿中討死ハ日本國ノ諸侍

